



お茶の水女子大学学报

平成 5 年 11 月 1 日
お茶の水女子大学庶務課

目 次

- ◇関係法令 1
- ◇人 事 2
- ◇各種委員会委員 8
- ◇学 科 主 任 17
- ◇学 事 18
 - 平成 6 年度お茶の水女子大学推薦入学学生
募集要項 18
 - 平成 6 年度お茶の水女子大学私費外国人留
学生(学部留学生)募集要項 26
 - 平成 6 年度お茶の水女子大学帰国子女特別
選抜募集要項 32
 - 平成 6 年度お茶の水女子大学大学院人文科
学研究科(修士課程)学生募集要項 40
- ◇諸 報 47
 - 平成 5 年 9 月卒業式・学位記授与式につい
て 47
 - 海外渡航 48
 - 研 修 49
 - 平成 5 年度職員福利厚生事業について 50
 - 健康診断について 51
 - 自衛消防隊訓練審査会について 52
 - 討 報 52
 - そ の 他 52
- ◇日 誌 53

関係法令

【省 令】

- 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令(文
部省令第30号、9月30日官報)
- 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関
する省令の一部を改正する省令(文部省令第31号、
9月30日官報)
- 大学院設置基準の一部を改正する省令(文部省令第
32号、10月1日官報)

【規 則】

- 人事院規則17-0(管理職員等の範囲)の一部を改
正する人事院規則(人事院17-0-31、9月30日官
報)
- 人事院規則9-2(俸給表の適用範囲)の一部を改
正する人事院規則(人事院9-2-18、10月1日官
報)
- 人事院規則9-17(俸給の特別調整額)の一部を改
正する人事院規則(人事院9-17-45、10月1日官
報)
- 人事院規則9-55(特地勤務手当等)一部を改正す
る人事院規則(人事院9-55-29、10月1日官報)
- 人事院規則9-58(筑波研究学園都市移転手当)の
一部を改正する人事院規則(人事院9-58-10、10
月1日官報)

【告 示】

- 社会体育指導者の知識・技能審査事業の認定に関す
る規程に基づく審査・証明事業を認定する件(文部
省告示第119号、10月1日官報)

- 大学入学に関し専修学校高等課程について文部大臣が個別に指定した件（文部省告示第123号、10月14日官報）
- 大学入学に関し文部大臣が個別に指定した専修学校高等課程についてその課程を平成4年10月12日をもって廃止した件（文部省告示第124号、10月14日官報）
- 大学入学に関し文部大臣が個別に指定した専門学校高等課程についてその課程を平成4年12月4日をもって廃止した件（文部省告示第125号、10月14日官報）
- 大学入学に関し文部大臣が個別に指定した専門学校高等課程についてその課程を平成5年3月31日をもって廃止した件（文部省告示第126号、10月14日官報）

- 大学入学に関し文部大臣が個別に指定した専修学校高等課程についてその名称を平成5年4月1日から変更した件（文部省告示第127号、10月14日官報）
- 大学入学に関し文部大臣が個別に指定した専修学校高等課程についてその名称を平成5年9月1日から変更した件（文部省告示第128号、10月14日官報）
- 大学入学に関し文部大臣が個別に指定した専修学校高等課程についてその名称を平成5年6月1日から変更した件（文部省告示第129号、10月14日官報）
- 大学入学に関し文部大臣が個別に指定した専門学校高等課程についてその課程を平成5年4月1日をもってその指定を解除した件（文部省告示第129号、10月14日官報）

人 事

◎常勤職員

発令年月日	氏 名	異 動 内 容	異 動 区 分	異動前の所属・官職
5. 8. 22	能 村 堆 子	理学部長事務代理（免）	公 の 名 称	（理学部教授）
5. 8. 29	森 田 彰 子	任用更新 任期5. 10. 7まで	臨時的任用	（附属高等学校教諭）
5. 9. 1	室 井 みゆき	附属小学校教諭 任期5. 10. 12まで	”	”
5. 9. 17	宮 島 喬	文教育学部長事務代理（命）	公 の 名 称	（文教育学部教授）
5. 9. 22	大 橋 昌 子	生活環境研究センター長事務代理（命）	”	（生活環境研究センター教授）
5. 9. 24	宮 島 喬	文教育学部長事務代理（免）	”	（文教育学部教授）
5. 9. 30	大 野 智 美	辞職承認	退 職	庶務課
5. 10. 1	市 古 夏 生	教授（文教育学部）	昇 任	助教授（文教育学部）
”	無 藤 隆	教授（生活科学部）	”	助教授（生活科学部）
”	”	教授（家政学部） 併任期間8. 3. 31まで	併 任	（生活科学部教授）
”	石 川 宏	評議員 併任期間7. 9. 30まで	”	（文教育学部教授）
”	辻 佐保子	”	”	”
”	窪 添 慶 文	”	”	”
”	清 水 碩	”	”	（理学部教授）
”	小 川 洋 輔	”	”	”
”	小 山 敏 子	”	”	”
”	板 倉 壽 郎	評議員 併任期間6. 9. 30まで	”	（生活科学部教授）

発令年月日	氏 名	異 動 内 容	異 動 区 分	異動前の所属・官職
5. 10. 1	島 田 淳 子	評議員 併任期間6. 9. 30まで	併 任	(生活科学部教授)
"	富 田 守	"	"	"
"	無 藤 隆	助教授(家政学部)併任解除	併任解除	"
"	福 田 豊	教授(理学部)併任解除	"	(岡崎国立共同研究機構教授)
5. 10. 4	大 橋 昌 子	生活環境研究センター長事務代理(免)	公の名称	(生活環境研究センター教授)
5. 10. 7	石 川 宏	文教育学部長事務代理(命)	"	(文教育学部教授)
5. 10. 8	石 井 朋 子	育児休業承認 期間6. 3. 31まで	休 職	(附属高等学校教諭)
"	森 田 彰 子	附属高等学校教諭 任期6. 3. 31まで	臨時的任用	
5. 10. 12	石 川 宏	文教育学部長事務代理(免)	公の名称	(文教育学部教授)
5. 10. 13	室 井 みゆき	任用更新 任期5. 11. 18まで	臨時的任用	(附属小学校教諭)

◎非常勤職員

発令年月日	氏 名	異 動 内 容	期 間	備 考
5. 8. 31	伊 藤 晃 子	辞職承認		学生課
5. 9. 1	丹 地 有 紀	事務補佐員(学生課)	5. 9. 1~6. 3.30	
"	陶 山 知 穂	教務補佐員(文教育学部)	5. 9. 1~6. 3.31	
"	中 山 美由紀	"	"	
"	白 井 順 子	教務補佐員(生活科学部)	"	
"	塩 谷 優 香	任用更新	5. 9. 1~5.12.31	事務補佐員(理学部)
5. 9. 10	井 上 京 子	辞職承認		理学部
5. 9. 13	寺 内 かえで	教務補佐員(理学部)	5. 9.13~6. 3.31	
5. 9. 30	霜 山 純 子	辞職承認		文教育学部
"	酒 井 泰 子	"		"
"	大 塚 和 子	"		"
"	新 井 桂 子	"		"
"	大 平 まり	"		理学部
5. 10. 1	長 峯 京 子	事務補佐員(文教育学部)	5.10. 1~6. 3.31	
"	志渡岡 理 恵	"	"	
"	大 脇 美智子	"	"	
"	植 田 雅 子	教務補佐員(生活科学部)	"	
"	工 藤 由貴子	"	"	
"	内 藤 由起子	"	"	

発令年月日	氏名	異動内容	期間	備考
5. 10. 1	伊藤 公恵	任用更新	5.10. 1~6. 3.31	教務補佐員（生活科学部）
”	川北 恵子	”	”	”
”	有末 伸子	”	”	”
”	近藤 恵	”	”	”

◎非常勤講師

発令年月日	氏名	異動内容	期間	備考
5. 9. 1	西 駕 秀 俊	講師（理学部）	5. 9. 1~5. 9.30	東京都立大学助教授
”	永 井 裕	”	”	東京医科歯科大学教授
”	堀 寛	”	”	名古屋大学教授
5. 9. 10	サラ・カスティ	講師（附属中学校）	5. 9.10~6. 3. 1	
5. 9. 30	築 島 史 恵	辞職承認		文教育学部
”	長 野 督	”		”
5. 10. 1	庄 司 洋 子	講師（文教育学部）	5.10. 1~6. 3.31	立教大学教授
”	大 野 芳 材	”	”	青山学院女子短期大学講師
”	大 西 比呂志	”	”	
”	栗 田 尚 弥	”	”	
”	生井沢 幸子	”	”	川村学園女子大学助教授
”	許 衛 東	”	”	
”	渡 辺 真紀子	”	”	中央学院大学講師
”	山 本 真 鳥	”	”	法政大学教授
”	今 野 喜 清	”	”	早稲田大学教授
”	斉 藤 利 彦	”	”	学習院大学助教授
”	小 林 千枝子	”	”	作新学院大学助教授
”	松 平 信 久	”	”	立教大学教授
”	岡 崎 友 典	”	”	放送大学助教授
”	並 木 博	”	”	慶応義塾大学教授
”	石 井 巖	”	”	立教大学教授
”	宮 内 孝 知	”	”	早稲田大学助教授
”	大 道 等	”	”	国際武道大学助教授
”	石 原 忠 興	”	”	国立音楽大学教授
”	加賀谷 淳子	”	”	日本女子体育大学教授
”	永 野 順 子	”	”	文化女子大学短大部助教授
”	飯 田 博 久	”	”	学校法人権光学園理事

発令年月日	氏名	異動内容	期間	備考
5. 10. 1	吉田敏弘	講師(文教育学部)	5.10. 1~6. 3.31	国学院大学助教授
"	杉浦芳夫	"	"	東京都立大学教授
"	中林一樹	"	"	東京都立大学教授
"	梅原弘光	"	"	立教大学教授
"	杉山利恵子	"	"	
"	白井堯子	"	"	千葉県立衛生短期大学教授
"	山崎喜比古	"	"	東京大学助教授
"	中野照男	"	"	東京国立文化財研究所室長
"	石見徹	"	"	東京大学教授
"	山本茂	"	"	埼玉大学教授
"	下村哲夫	"	"	筑波大学教授
"	桑原敏明	"	"	筑波大学教授
"	小沢周三	"	"	東京外国語大学教授
"	市川伸一	"	"	東京工業大学助教授
"	平野正久	"	"	大阪大学助教授
"	阪口正二郎	"	"	東京大学助教授
"	四方田千恵	"	"	横浜国立大学講師
"	阿部豊	"	"	東京大学助教授
"	小島道裕	"	"	国立歴史民俗博物館助手
"	山本義春	"	"	東京大学講師
"	芳賀徹	"	"	国際日本文化研究センター教授
"	井上泰次	"	"	附属中学校教諭
"	松木正子	"	"	附属小学校教諭
"	星野征男	"	"	附属小学校教諭
"	溝口元	講師(理学部)	"	立正大学短大部助教授
"	今市涼子	"	"	玉川大学助教授
"	千葉丈	"	"	東京理科大学教授
"	武久慎	"	"	慶応義塾大学教授
"	大矢雅則	"	"	東京理科大学教授
"	斉藤幸夫	"	"	慶応義塾大学助教授
"	塚田真	"	"	東邦大学助教授
"	佐藤倫子	"	"	東芝研究開発センター研究員
"	ロビン・ジョン・ニコラス	"	5.10. 1~5.12.31	オックスフォード大学特別研究員

発令年月日	氏 名	異 動 内 容	期 間	備 考
5. 10. 1	山 元 大 輔	講師 (理学部)	5.10. 1~6. 3.31	三菱化成生命科学研究所研究員
"	大 平 ま り	"	"	
"	木 幡 陽	"	"	(働)東京都老人総合研究所長
"	川 瀬 晃	"	"	セイコー電子工業株式会社顧問
"	勝 見 允 行	"	"	国際基督教大学教授
"	小 田 一 郎	"	"	
"	野 尻 伸 一	"	"	防衛大学校助手
"	林 利 彦	"	"	東京大学教授
"	守 隆 夫	"	"	東京大学教授
"	寶 来 正 子	"	"	東京工業大学助教授
"	清 木 康	"	"	筑波大学助教授
"	鷹 野 澄	"	"	東京大学講師
"	西 原 清 一	"	"	筑波大学教授
"	品 川 嘉 久	"	"	東京大学講師
"	三 宅 洋 一	"	"	千葉大学教授
"	有 光 敏 彦	"	"	筑波大学講師
"	河 村 哲 也	"	"	千葉大学助教授
"	元 屋 清一郎	"	"	埼玉大学助教授
"	田 中 文 彦	"	"	東京農工大学教授
"	井 上 圭 三	"	"	東京大学教授
"	古 市 貞 一	"	"	東京大学助教授
"	廣 川 信 隆	"	"	東京大学教授
"	金 井 龍 二	"	"	埼玉大学教授
"	山 田 敬 吾	"	"	筑波大学教授
"	小 松 彦三郎	"	"	東京大学教授
"	片 岡 清 臣	"	"	東京大学助教授
"	萩 原 薫	"	"	高エネルギー物理学研究所助手
"	本 川 達 雄	"	"	東京工業大学教授
"	岸 本 健 雄	"	"	東京工業大学教授
"	内 宮 博 文	"	"	東京大学教授
"	高 木 亮 一	"	"	千葉大学教授
"	大 武 信 之	"	"	筑波技術短期大学助手
"	佐 藤 道 幸	"	"	附属中学校教諭
"	今 井 和 子	講師 (家政学部)	"	

発令年月日	氏名	異動内容	期間	備考
5. 10. 1	増山 真緒子	講師(家政学部)	5.10. 1~6. 3.31	
"	鴫 養美 昭	"	"	日本女子大学助教授
"	山本 和郎	"	"	慶応義塾大学教授
"	山口 静子	"	"	味の素食品総合研究所参事
"	石川 寛子	"	"	武蔵野女子大学短大部教授
"	沖谷 明紘	"	"	日本獣医畜産大学教授
"	小野寺 義幸	"	"	
"	山崎 稔恵	"	"	関東学院女子短期大学講師
"	横田 明子	"	"	川村短期大学助教授
"	柿沼 昌芳	"	"	
"	大貫 敬一	"	"	共立女子大学助教授
"	松本 美鈴	"	"	
"	市川 雅教	"	"	東京外国語大学助教授
"	山中 英明	"	"	東京水産大学教授
"	山崎 真狩	"	"	東京大学教授
"	栃原 裕	"	"	国立公衆衛生院室長
"	坂本 満	"	"	国立歴史民俗博物館教授
"	中山 和郎	"	"	工業技術院室長
"	在塚 礼子	"	"	埼玉大学助教授
"	井上 勝也	"	"	筑波大学教授
"	福田 アジオ	"	"	新潟大学教授
"	岩立 京子	"	"	東京学芸大学助教授
"	上野川 修一	"	"	東京大学教授
"	豊田 正武	"	"	国立衛生試験所食品部室長
"	真家 和生	講師(生活科学部)	"	大妻女子大学講師
"	荻原 重夫	"	"	愛知県立芸術大学助教授
"	大塚 柳太郎	"	"	東京大学教授
"	河内 真紀子	"	"	工業技術院主任研究官
"	仲 真紀子	"	"	千葉大学助教授
"	内野 正幸	"	"	筑波大学助教授
"	武者 利光	講師(大学院人間文化研究科)	"	東京理科大学教授
"	古谷 寿美子	"	"	慶応義塾大学教授

◆各種委員会委員◆

1. ()は事務担当課
2. *印は委員長又は議長
3. 任期無記入は官職指定
4. 官職は最新のものを掲載
(編集上の異動について
もできる限り補正した)

評議会(庶務課)

官 職	氏 名	任 期
学 長	*太田次郎	4. 2.16~7. 2.15
文 教 育 学 部 長	徳丸吉彦	4.10. 1~6. 9.30
理 学 部 長	伊藤厚子	4. 4. 1~6. 3.31
生 活 科 学 部 長	荒川信彦	4.10. 1~6. 9.30
家 政 学 部 長	荒川信彦	5. 4. 2~6. 9.30
大学院人間文化研究科長	森 隆夫	3. 4. 1~6. 3.31
附属図書館長	佐藤 保	4.11. 1~6.10.31
附属学校部長	尾田幸雄	5. 4. 1~8. 3.31
文 教 育 学 部 教 授	辻 佐保子	5.10. 1~7. 9.30
文 教 育 学 部 教 授	石川 宏	5.10. 1~7. 9.30
文 教 育 学 部 教 授	窪添慶文	5.10. 1~7. 9.30
理 学 部 教 授	清水 碩	5.10. 1~7. 9.30
理 学 部 教 授	小川洋輔	5.10. 1~7. 9.30
理 学 部 教 授	小山敏子	5.10. 1~7. 9.30
生 活 科 学 部 教 授	板倉壽郎	4.10. 1~6. 9.30
生 活 科 学 部 教 授	島田淳子	4.10. 1~6. 9.30
生 活 科 学 部 教 授	富田 守	4.10. 1~6. 9.30
家 政 学 部 教 授	板倉壽郎	5.10. 1~6. 9.30
家 政 学 部 教 授	島田淳子	5.10. 1~6. 9.30

官 職	氏 名	任 期
家 政 学 部 教 授	富田 守	5.10. 1~6. 9.30

評議会(常時評議会に出席できる者)

官 職	氏 名	任 期
事 務 局 長	統橋延幸	
学 生 部 長	加賀秀夫	5. 4. 1~7. 3.31
カリキュラム委員長	真島秀行	5. 4. 1~6. 3.31
女性文化研究センター長	清水 碩	5. 4. 1~7. 3.31
生活環境研究センター長	五十嵐 脩	5. 4. 1~7. 3.31

基本計画委員会(庶務課)

官 職	氏 名	任 期
学 長	*太田次郎	
文 教 育 学 部 長	徳丸吉彦	
理 学 部 長	伊藤厚子	
生活科学部長 家政学部長	荒川信彦	
大学院人間文化研究科長	森 隆夫	
附属図書館長	佐藤 保	
附 属 学 校 部 長	尾田幸雄	
学 生 部 長	加賀秀夫	
事 務 局 長	統橋延幸	

自己点検・評価検討委員会(庶務課)

官 職	氏 名	任 期
学 長	*太田次郎	
文 教 育 学 部 長	徳丸吉彦	
理 学 部 長	伊藤厚子	

官 職	氏 名	任 期
生活科学部長 家政学部長	荒川 信彦	
大学院人間 文化研究科長	森 隆夫	
文教育学部 教 授	山本 秀行	
理学部教授	富田 功	
生活科学部 教 授	中島 利誠	
大学院人間文化 研究科教授	窪 添慶文	
女性文化研究 センター長	清水 碩	
生活環境研究 センター長	五十嵐 脩	
附属図書館長	佐藤 保	
附属学校 長	尾田 幸雄	
学生部長	加賀 秀夫	
事務局長	続橋 延幸	

国際交流委員会（庶務課）

官 職	氏 名	任 期
学 長	*太田 次郎	
文 教 育 学 部 長	徳丸 吉彦	
理 学 部 長	伊藤 厚子	
生活科学部長 家政学部長	荒川 信彦	
大学院人間 文化研究科長	森 隆夫	
文教育学部 助 教 授	平田 悦朗	
理 学 部 助 教 授	藤枝 修子	
生活科学部 講 師	柴坂 寿子	
大学院人間文化 研究科教授	藤山 和子	

官 職	氏 名	任 期
学生部長	加賀 秀夫	5. 4. 1~7. 3.31
人 文 科 学 研究科教授	水谷 信子	
事務局長	続橋 延幸	

将来構想検討委員会（庶務課）

官 職	氏 名	任 期
文教育学部 教 授	平野 由起子	4.10. 1~6. 9.30
文教育学部 助 教 授	栗原 尚子	
理 学 部 助 教 授	渡辺 ヒサ子	
理 学 部 教 授	石和 貞男	5. 4. 1~6. 9.30
生活科学部 教 授	本間 清一	
生活科学部 教 授	本田 和子	4.10. 1~6. 9.30
大学院人間文化 研究科教授	*宮島 喬	
女性文化研究 センター教授	原 ひろ子	
生活環境研究 センター教授	倉田 忠男	

発明委員会（庶務課）

官 職	氏 名	任 期	
文 教 育 学 部 長	徳丸 吉彦	4.10. 1~6. 9.30	
理 学 部 長	伊藤 厚子		
生活科学部長 家政学部長	荒川 信彦		
文教育学部 助 教 授	内藤 俊史		
理 学 部 助 教 授	細矢 治夫		
理 学 部 助 教 授	内嶋 善兵衛		
生活科学部 教 授	小川 昭二郎		
生活環境研究 センター教授	倉田 忠男		

組換えDNA実験安全委員会(庶務課)

官 職	氏 名	任 期
研究者	理学部教授 *清水 碩	3.12.16) 5.12.15
研究者	生活環境研究センター教授 大橋 昌子	
自然科学	理学部教授 松本 勲 武	
自然科学	生活科学部助教 村田 容 常	
人文科学	文教育学部教授 尾田 幸 雄	
社会科学	生活科学部講師 山本 政 人	
官職指定	保健管理センター所長 永川 祐 三	
官職指定	理学部事務長 薄葉 章	
官職指定	生活科学部事務長 菊池 昭 夫	
安全主任者	理学部教授 能村 堆 子	

事務改善研究委員会(庶務課)

官 職	氏 名	任 期
事務局長	*続橋 延 幸	
庶務課長	井上 重 己	
会計課長	辻 正 行	
施設課長	南 芳 美	
学務課長	筋 忠 男	
学生課長	佐藤 克 彦	
入学主幹	福島 毅	
庶務課長補佐	海老原 葵	
会計課長補佐	西村 光 範	
施設課長補佐	太田原 武	
学務課長補佐	中野 公 敏	

官 職	氏 名	任 期
文教育学部事務長	細井 隆 一	
理学部事務長	薄葉 章	
生活科学部事務長	菊池 昭 夫	
附属図書館事務長	高橋 伸 夫	

レクリエーション運営委員会(庶務課)

官 職	氏 名	任 期
事務局長	*続橋 延 幸	
庶務課長	井上 重 己	
会計課長	辻 正 行	
施設課長	南 芳 美	
学務課長	筋 忠 男	
学生課長	佐藤 克 彦	
入学主幹	福島 毅	
文教育学部事務長	細井 隆 一	
理学部事務長	薄葉 章	
生活科学部事務長	菊池 昭 夫	
附属図書館事務長	高橋 伸 夫	
庶務課長補佐 附属学校部長 事務室長	海老原 葵	
会計課長補佐	西村 光 範	
施設課長補佐	太田原 武	
学務課長補佐	中野 公 敏	
研究協力室長	古賀 智	

女性文化研究センター運営委員会（庶務課）

官 職	氏 名	任 期	
女性文化研究センター長	*清水 碩	4. 4. 1~6. 3.31	
文 教 育 学 部 長	徳丸吉彦		
理 学 部 長	伊藤厚子		
生活科学部長 家政学部長	荒川信彦		
大学院人間 文化研究科長	森 隆夫		
附属図書館長	佐藤 保		
女性文化研究 センター教授	原 ひろ子		
女性文化研究 センター助教授	館 かおる		
文 教 育 学 部 教 授	田 中 真砂子		4. 4.23~6. 4.22
理 学 部 教 授	澤 島 侑子		
生活科学部 教 授	袖 井 孝子		
事 務 局 長	続 橋 延 幸		

生活環境研究センター運営委員会（庶務課）

官 職	氏 名	任 期	
生活環境研究センター長	*五十嵐 脩	5. 4. 1~7. 3.31	
文 教 育 学 部 長	徳丸吉彦		
理 学 部 長	伊藤厚子		
生活科学部長 家政学部長	荒川信彦		
生活環境研究 センター教授	大橋昌子		
生活環境研究 センター教授	倉田忠男		
生活環境研究 センター助教授	富永典子		
文 教 育 学 部 教 授	田宮兵衛		4. 4. 1~6. 3.31
理 学 部 教 授	松本勲武		

官 職	氏 名	任 期
生活科学部 教 授	小川昭二郎	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 教 授	本間清一	
事 務 局 長	続 橋 延 幸	

予算委員会（会計課）

官 職	氏 名	任 期
文 教 育 学 部 長	徳丸吉彦	5. 4. 1~7. 3.31
理 学 部 長	伊藤厚子	
生活科学部長 家政学部長	荒川信彦	
大学院人間 文化研究科長	森 隆夫	
文 教 育 学 部 教 授	大口勇二郎	5. 4. 1~6. 9.30
文 教 育 学 部 教 授	内藤博夫	5. 4. 1~7. 3.31
理 学 部 教 授	平野恒夫	4. 4. 1~6. 3.31
理 学 部 教 授	富永靖徳	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 教 授	小林彰夫	5. 4. 1~7. 3.31
生活科学部 教 授	中島利誠	5. 4. 1~7. 3.31
大学院人間 文化研究科教授	遠山 益	5. 4. 1~7. 3.31
附属図書館長	*佐藤 保	4. 4. 1~6. 3.31
女性文化研究 センター長	清水 碩	
生活環境研究 センター長	五十嵐 脩	
事 務 局 長	続 橋 延 幸	
学 生 部 長	加賀秀夫	
会 計 課 長	辻 正 行	

防災委員会 (会計課)

官 職	氏 名	任 期
学 長	*太田次郎	
文 教 育 学 部 学 長	徳丸吉彦	
理 学 部 長	伊藤厚子	
生活科学部長 家政学部長	荒川信彦	
大学院人間 文化研究科長	森 隆夫	
附属図書館長	佐藤 保	
附 属 学 校 長	尾田幸雄	
学 生 部 長	加賀秀夫	
保 健 管 理 センター所長	永川祐三	
事 務 局 長	続橋延幸	
庶 務 課 長	井上重己	
会 計 課 長	辻 正行	
施 設 課 長	南 芳美	
学 務 課 長	筋 忠男	
学 生 課 長	佐藤克彦	

購入物品機種選定委員会 (会計課)

官 職	氏 名	任 期
文 教 育 学 部 講 師	杉谷 隆	4. 4. 1~6. 3.31
文 教 育 学 部 助 教 授	内藤俊史	
理 学 部 授	田中 翠	
理 学 部 授	富田 功	
生活環境研究 センター教授	倉田忠男	
生活科学部 教 授	小川昭二郎	

施設計画委員会 (施設課)

官 職	氏 名	任 期	
学 長	*太田次郎		
文 教 育 学 部 学 長	徳丸吉彦		
理 学 部 長	伊藤厚子		
生活科学部長 家政学部長	荒川信彦		
大学院人間 文化研究科長	森 隆夫		
文 教 育 学 部 教 授	大口勇次郎		5.10. 1~7. 9.30
文 教 育 学 部 教 授	春日 喬		5.10. 1~7. 9.30
理 学 部 授	細矢治夫		4. 4. 1~6. 3.31
理 学 部 授	石和貞男		5. 4. 1~7. 3.31
生活科学部 教 授	湯沢雍彦		4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 教 授	板倉壽郎	4. 4. 1~6. 3.31	
大学院人間 文化研究科教授	遠山 益	5. 4. 1~7. 3.31	
附属図書館長	佐藤 保		
附属学校部長	尾田幸雄		
女 性 文 化 センター長	清水 碩		
生活環境研究 センター長	五十嵐 脩		
事 務 局 長	続橋延幸		
学 生 部 長	加賀秀夫		
カリキュラム 委員会委員長	真島秀行		

館山施設計画委員会（施設課）

官 職	氏 名	任 期
理 学 部 長	*伊 藤 厚 子	
文 教 育 学 部 助 教 授	本 田 郁 子	4. 4. 1~6. 3.31
文 教 育 学 部 助 教 授	杉 山 進	5.10. 1~7. 9.30
理 学 部 教 授	松 本 勲 武	4. 4. 1~6. 3.31
生 活 科 学 部 教 授	本 間 清 一	4.10. 1~6. 9.30
理 学 部 附 属 臨 海 実 験 所 助 教 授	根 本 心 一	
附 属 高 等 学 校 教 頭	早 崎 捷 治	
附 属 中 学 校 教 頭	大 岩 順 子	
附 属 小 学 校 教 頭	古 市 憲 一	
附 属 幼 稚 園 教 頭	榊 田 正 子	
学 生 部 長	加 賀 秀 夫	
事 務 局 長	統 橋 延 幸	
会 計 課 長	辻 正 行	
施 設 課 長	南 芳 美	

◎廃水管理委員会（施設課）

官 職	氏 名	任 期
文 教 育 学 部 助 教 授	杉 谷 隆	
理 学 部 助 教 授	林 正 男	
理 学 部 助 教 授	浜 谷 望	
理 学 部 助 教 授	藤 枝 修 子	5.10. 1~7. 9.30
生 活 科 学 部 助 教 授	駒 城 素 子	
生 活 科 学 部 助 教 授	大 塚 恵	
生 活 環 境 研 究 セ ン タ ー 教 授	*五 十 嵐 脩	

官 職	氏 名	任 期
附 属 高 等 学 校 教 諭	磯 貝 文 男	
附 属 中 学 校 教 諭	佐 々 木 和 枝	5.10. 1~7. 9.30
会 計 課 長	辻 正 行	
施 設 課 長	南 芳 美	

カリキュラム委員会（学務課）

官 職	氏 名	任 期
理 学 部 教 授	*真 島 秀 行	5. 4. 1~6. 3.31
文 教 育 学 部 教 授	土 屋 賢 二	5. 4. 1~6. 3.31
文 教 育 学 部 教 授	小 川 剛	5. 4. 1~6. 3.31
文 教 育 学 部 助 教 授	宮 尾 正 樹	5. 4. 1~6. 3.31
理 学 部 助 教 授	浜 谷 望	5. 4. 1~6. 3.31
理 学 部 助 教 授	林 正 男	5. 4. 1~6. 3.31
生 活 科 学 部 教 授	無 藤 隆	5. 4. 1~6. 3.31
生 活 科 学 部 助 教 授	長 谷 部 ヤ エ	5. 4. 1~6. 3.31
生 活 科 学 部 助 教 授	篠 塚 英 子	5. 4. 1~6. 3.31
学 生 部 長	加 賀 秀 夫	

公開講座委員会（学務課）

官 職	氏 名	任 期
文 教 育 学 部 教 授	*辻 佐 保 子	4. 1.20~6. 3.19
文 教 育 学 部 教 授	平 野 由 紀 子	4.10. 1~6. 1.19
文 教 育 学 部 教 授	海 老 根 静 枝	4.10. 1~6. 1.19
理 学 部 教 授	太 田 隆 夫	4. 1.20~6. 1.19
理 学 部 教 授	塚 田 和 美	5. 5. 1~6. 1.19
理 学 部 助 教 授	今 野 美 智 子	4. 1.20~6. 1.19

官 職	氏 名	任 期
生活科学部 教 授	黒 田 淑 子	4. 1.20~6. 1.19
生活科学部 助 教 授	久保田 紀久枝	4. 1.20~6. 1.19
生活科学部 助 教 授	徳 井 淑 子	4. 1.20~6. 1.19
学 生 部 長	加 賀 秀 夫	

学生委員会 (学生課)

官 職	氏 名	任 期
文教育学部 助 教 授	耳 塚 寛 明	3. 4. 1~6. 3.31
文教育学部 助 教 授	中 村 俊 直	4. 4. 1~7. 3.31
文教育学部 助 教 授	坂 元 章	5. 4. 1~8. 3.31
理 学 部 助 教 授	益 田 祐 一	3. 4. 1 ~6. 3.31
理 学 部 助 教 授	竹 尾 富 貴 子	4. 4. 1~7. 3.31
理 学 部 助 教 授	芦 原 坦	5. 4. 1~8. 3.31
生活科学部 助 教 授	* 仲 西 正	3. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 講 師	田 代 和 美	4. 4. 1~7. 3.31
生活科学部 助 教 授	御 船 美 智 子	5. 4. 1~8. 3.31
学 生 部 長	加 賀 秀 夫	

共用体育施設等管理運営委員会 (学生課)

官 職	氏 名	任 期
文教育学部 助 教 授	* 杉 山 進	4. 6.16~6. 6.15
学 生 部 長	加 賀 秀 夫	
附 属 学 校 部 長	尾 田 幸 雄	
会 計 課 長	辻 正 行	
学 生 課 長	佐 藤 克 彦	

保健管理センター運営委員会 (学生課)

官 職	氏 名	任 期
保 健 管 理 セ ン ター 所 長	* 永 川 祐 三	
文教育学部 助 教 授	杉 山 進	5. 4. 1~7. 3.31
文教育学部 教 授	佐 藤 良 子	5. 4. 1~6. 3.31
理 学 部 教 授	清 水 碩	5. 4. 1~7. 3.31
理 学 部 助 教 授	前 田 ミチエ	5. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 教 授	富 田 守	5. 4. 1~7. 3.31
生活科学部 教 授	水 野 梯 一	5. 4. 1~6. 3.31
附 属 中 学 校 教 諭	山 梨 八 重 子	5. 4. 1~6. 3.31
学 生 部 長	加 賀 秀 夫	
事 務 局 長	続 橋 延 幸	

入学試験委員会 (入学主幹室)

官 職	氏 名	任 期
学 長	* 太 田 次 郎	
文 教 育 学 部 長	徳 丸 吉 彦	
理 学 部 長	伊 藤 厚 子	
生活科学部 長 家政学 部 長	荒 川 信 彦	
文教育学部 助 教 授	安 田 次 郎	4. 4. 1~6. 3.31
文教育学部 助 教 授	石 口 彰	5. 4. 1~7. 3.31
理 学 部 教 授	松 本 勲 武	4. 4. 1~6. 3.31
理 学 部 教 授	馬 場 昭 次	5. 4. 1~7. 3.31
生活科学部 助 教 授	久保田 紀久枝	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 教 授	小 川 昭 二 郎	5. 4. 1~7. 3.31
学 生 部 長	加 賀 秀 夫	

官 職	氏 名	任 期
事務局 長	続 橋 延 幸	
保 健 管 理 センター所長	永 川 祐 三	
情 報 処 理 センター長	細 矢 治 夫	

入学者選抜方法研究委員会 (入学主幹室)

官 職	氏 名	任 期
文教育学部 助 教 授	*杉 谷 隆	4. 4. 1~6. 3.31
文教育学部 助 教 授	羽 入 佐和子	5. 4. 1~7. 3.31
理 学 部 教 授	太 田 隆 夫	4. 4. 1~6. 3.31
理 学 部 教 授	馬 場 昭 次	5. 4. 1 ~7. 3.31
生活科学部 助 教 授	村 田 容 常	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 助 教 授	徳 井 淑 子	5. 4. 1~7. 3.31
学 生 部 長	加 賀 秀 夫	
カリキュラム 委 員 長	真 島 秀 行	

学芸員課程委員会 (文教育学部事務部)

官 職	氏 名	任 期
文教育学部 教 授	宮 原 修	
文教育学部 教 授	小 川 剛	
文教育学部 助 教 授	*鷹 野 光 行	
文教育学部 助 教 授	秋 山 光 文	4.10. 1~6. 9.30
文教育学部 助 教 授	安 田 次 郎	4.10. 1~6. 9.30
文教育学部 助 教 授	栗 原 尚 子	4.10. 1~6. 9.30
文教育学部 助 教 授	大 塚 常 樹	4.10. 1~6. 9.30
理 学 部 助 教 授	山 下 貴 司	4.10. 1~6. 9.30
生活科学部 助 教 授	徳 井 淑 子	4.10. 1~6. 9.30

理学部附属臨海実験所運営委員会 (理学部事務部)

官 職	氏 名	任 期
理 学 部 長	*伊 藤 厚 子	
理学部附属 臨海実験所長	根 本 心 一	
理 学 部 教 授	富 永 靖 徳	4. 4. 1~6. 3.31
理 学 部 教 授	松 本 勲 武	4. 4. 1~6. 3.31
理 学 部 助 教 授	山 下 貴 司	4. 4. 1~6. 3.31
理 学 部 助 教 授	渡 辺 洋 子	4. 4. 1~6. 3.31
文教育学部 教 授	田 宮 兵 衛	4. 4. 1~6. 3.31
文教育学部 助 教 授	栗 原 尚 子	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 教 授	本 間 清 一	4. 4. 1~6. 3.31
生活環境研究 センター教授	大 橋 昌 子	4. 4. 1~6. 3.31
会 計 課 長	辻 正 行	
施 設 課 長	南 芳 美	

理学部ラジオアイソトープ実験室運営委員会
(理学部事務部)

官 職	氏 名	任 期
理 学 部 長	*伊 藤 厚 子	
RI実験室長	富 田 功	
放 射 線 取 扱 主 任 者	所 哲 司	
文教育学部 助 教 授	杉 谷 隆	4. 4. 1~6. 3.31
理 学 部 教 授	田 中 翠	4.10. 1~6. 9.30
理 学 部 教 授	清 水 碩	4.10. 1~6. 9.30
理 学 部 教 授	松 本 勲 武	4.10. 1~6. 9.30
生活科学部 助 教 授	大 塚 恵	5.10. 1~7. 9.30
生活環境研究 センター教授	富 永 典 子	5.10. 1~7. 9.30

理学部極低温実験室運営委員会 (理学部事務部)

官 職	氏 名	任 期
理 学 部 長	*伊 藤 厚 子	
極 低 温 実 験 室 長	田 中 翠	
理 学 部 助 教 授	浜 谷 望	4. 4. 1~6. 3.31
理 学 部 助 教 授	永 野 肇	4. 4. 1~6. 3.31
理 学 部 助 教 授	芦 原 担	4. 4. 1~6. 3.31
生活環境研究 センター助教授	富 永 典 子	4. 4. 1~6. 3.31
保安管理者	所 哲 司	

情報処理センター運営委員会 (理学部事務部)

官 職	氏 名	任 期
センター長	*細 谷 治 夫	
センター主任 理学部助教授	長 嶋 雲 兵	5.10. 1~6. 9.30
文 教 育 学 部 助 教 授	千 歳 寿 一	4.10. 1~6. 9.30
文 教 育 学 部 助 教 授	内 藤 俊 史	4.10. 1~6. 9.30
理 学 部 助 教 授	山 下 貴 司	5. 5. 1~6. 9.30
理 学 部 教 授	平 野 恒 夫	4.10. 1~6. 9.30
生活科学部 助 教 授	村 田 容 常	4.10. 1~6. 9.30
生活科学部 助 教 授	仲 西 正	4.10. 1~6. 9.30
大学院人間 文化研究科教授	富 永 靖 徳	4.10. 1~6. 9.30
女性文化研究 センター助教授	舘 かおる	4.10. 1~6. 9.30
生活環境研究 センター助教授	富 永 典 子	4.10. 1~6. 9.30
附属図書館長	佐 藤 保	
学 生 部 長	加 賀 秀 夫	
カリキュラム 委 員 長	真 島 秀 行	

附属図書館運営委員会 (附属図書館事務部)

官 職	氏 名	任 期
附属図書館長	*佐 藤 保	4.11. 1~6.10.31
文 教 育 学 部 教 授	平 野 由 紀 子	4. 4. 1~6. 3.31
文 教 育 学 部 助 教 授	今 西 典 子	4.10. 1~6. 9.30
理 学 部 助 教 授	今 野 美 智 子	4. 4. 1~6. 3.31
理 学 部 講 師	亀 井 理	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 教 授	小 池 三 枝	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 助 教 授	鈴 木 恵 美 子	5. 4. 1~7. 3.31
人 間 文 化 研 究 科 教 授	渡 部 ヒ サ 子	5. 6. 1~7. 5.31
生活環境研究 センター教授	大 橋 昌 子	4. 4. 1~6. 3.31
女性文化研究 センター教授	原 ひろ子	4. 4. 1~6. 3.31
カリキュラム 委 員 長	真 島 秀 行	

附属学校委員会 (附属学校部)

官 職	氏 名	任 期
附 属 学 校 部 長	*尾 田 幸 雄	
文 教 育 学 部 教 授	小 川 剛	5. 4. 1~7. 3.31
理 学 部 教 授	田 中 翠	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 教 授	湯 沢 雍 彦	4. 4. 1~6. 3.31
事 務 局 長	続 橋 延 幸	
附 属 小 学 校 長	森 下 はるみ	
附 属 中 学 校 長	上 野 浩 道	
附 属 高 等 学 校 長	前 田 侯 子	
附 属 幼 稚 園 長	島 田 淳 子	
附 属 小 学 校 教 頭	古 市 憲 一	

官 職	氏 名	任 期
附属中学校 教 頭	大 岩 順 子	
附属高等学校 教 頭	早 崎 捷 治	
附属幼稚園 教 頭	榊 田 正 子	

附属学校教育研究委員会（附属学校部）

官 職	氏 名	任 期
附 属 学 校 部 長	*尾 田 幸 雄	
文 教 育 学 部 教 授	春 日 喬	4. 4. 1~6. 3.31
理 学 部 教 授	小 山 敏 子	4. 4. 1~6. 3.31
生 活 科 学 部 助 教 授	牧 野 カツコ	4. 4. 1~6. 3.31
教 育 学 科 教 授	宮 原 修	5. 4. 1~7. 3.31
人 間 生 活 学 科 教 授	黒 田 淑 子	4. 4. 1~6. 3.31
附 属 小 学 校 小 学 長	森 下 はるみ	
附 属 中 学 校 中 学 長	上 野 浩 道	
附 属 高 等 学 校 高 等 学 長	前 田 侯 子	

官 職	氏 名	任 期
附属幼稚園長	島 田 淳 子	
附属小学校 教 頭	古 市 憲 一	
附属中学校 教 頭	大 岩 順 子	
附属高等学校 教 頭	早 崎 捷 治	
附属幼稚園 教 頭	榊 田 正 子	4. 4. 1~6. 3.31
附属小学校 教 諭	遠 藤 修 一 郎	
附属小学校 教 諭	和 田 淳	
附属中学校 教 諭	花 田 修 一	
附属中学校 教 諭	田 中 美 也 子	
附属高等学校 教 諭	大 戸 吉 和	
附属高等学校 教 諭	室 岡 和 彦	
附属幼稚園 教 諭	豊 田 一 秀	
附属幼稚園 教 諭	田 中 三 保 子	

○学科主任の交替

学 部	学 科 等	職 名	氏 名	
文 教 育 学 部	哲 学 科	教 授	宮 島 喬	平成5年9月16日から
理 学 部	数 学 科	教 授	澤 島 侑 子	平成5年10月1日から

学 事

○平成6年度 お茶の水女子大学推薦入学 学 生 募 集 要 項

1. 学部・学科別募集人員

学 部	学 科	募 集 人 員
文 教 育 学 部	地 理 学 科	入学定員のうち 5名
	国 文 学 科	入学定員のうち 8名
	外 国 文 学 科 (中国文学・中国語学)	入学定員のうち 4名
理 学 部	数 学 科	入学定員のうち 6名
	物 理 学 科	入学定員のうち 5名
	化 学 科	入学定員のうち 5名
	生 物 学 科	入学定員のうち 7名
	情 報 科 学 科	入学定員のうち 8名
生 活 科 学 部	生 活 環 境 学 科	入学定員のうち12名
	人 間 生 活 学 科	入学定員のうち14名

2. 出願資格及び推薦の要件

文 教 育 学 部	<p>平成5年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの女子で、高等学校長が次の①又は②のいずれかに該当すると認め、責任をもって推薦できる者。</p> <p>① 調査書の学習成績概評が㊦の者</p> <p>② 志望学科に関連する科目〔地理学科の関連科目は地理又は地学、国文学科は国語、外国文学科(中国文学・中国語学)は国語又は外国語〕において特に優れた能力と意欲を有する者</p>
理 学 部	<p>平成5年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの女子で、真理の探究に対し強い憧憬と意欲を抱き、かつ、高等学校長が次の①又は②のいずれかに該当すると認め、責任をもって推薦できる者。</p> <p>① 調査書の学習成績概評が㊦の者</p> <p>② 志望学科に関連する科目において特に優れた能力と意欲を有する者</p>
生 活 科 学 部	<p>平成5年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの女子で、真理の探究に対し強い憧憬と意欲を抱き、かつ、高等学校長が次の①又は②のいずれかに該当すると認め、責任をもって推薦できる者。</p> <p>① 調査書の学習成績概評が㊦の者</p> <p>② 志望学科における各専門領域の勉学に強い意欲を有する者</p>

3. 出願書類等

1	推薦入学出願カード	本学所定のもの。 (志願者名票、写真票、受験票)
2	あて名票3枚	合格通知等に使用するので、本学所定の用紙に志願者の住所・氏名・郵便番号を記入すること。郵便切手は貼付しないでよい。
3	調査書	高等学校長が作成し、厳封したもの。
4	推薦書	本学所定の用紙に、高等学校長が作成し、厳封したもの。
5	志望理由書	本学所定のもの。
6	検定料	15,000円(郵便為替として受取人指定欄に「お茶の水女子大学」とのみ書くこと。) 注) 1. 第1次選考の不合格者に対しては、12,000円を返還する。 2. 上記の1に該当する者は、平成6年3月31日までに申し出ること。 なお、上記1の場合以外は、いかなる理由があっても既納の検定料は返還しない。
7	検定料納付書	本学所定の用紙(原符・領収証書)に必要事項を記入すること。
8	受験票返送用封筒	本学所定の封筒に272円切手(速達料を含む。)を貼付し、志願者の住所、氏名及び郵便番号を記入すること。

4. 出願上の注意

- (1) 国公立大学の推薦入学(大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて)は1つの大学・学部しか出願できない。
- (2) 出願後の志望学部・学科等の変更は認めない。
- (3) 出願書類不備の場合は受理しない。また、一旦受理した書類は返却しない。

5. 出願方法

- (1) 出願書類の提出は、本学所定の封筒を用い、高等学校長が厳封の上、必ず書留速達で下記あてに郵送すること。

注 本学では出願書類を受理したときは、直ちに「受験票」を送付するので出願書類発送後7日間たっても未着のときは下記の出願書類送付先に問い合わせること。

(2) 送付先

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

文教育学部志願者	文教育学部事務部
理学部志願者	理学部事務部
生活科学部志願者	生活科学部事務部

6. 出願期間

文教育学部	平成5年11月1日(月)～11月8日(月) (締切日までの消印があれば有効)
理 学 部	平成5年10月25日(月)～11月1日(月) (締切日までの消印があれば有効)
生活科学部	

7. 選抜方法

選考は、次の第1次・第2次に分けて行う。

①第1次選考

文教育学部	出願書類による書類選考を行い、平成5年11月22日(月)までに、その合格者には、「第1次選考合格通知書(第2次選考試験集合日時併記)」を、合格とならなかった者には、「第1次選考結果通知書」及び「検定料返還金請求書」を送付する。
理 学 部 生活科学部	出願書類による書類選考を行い、平成5年11月24日(水)までに、その合格者には、「第1次選考合格通知書(第2次選考試験集合日時併記)」を、合格とならなかった者には、「第1次選考結果通知書」及び「検定料返還金請求書」を送付する。

②第2次選考

文教育学部	第1次選考合格者に対し、志望学科による小論文試験を平成5年11月29日(月)に、口述試験を11月30日(火)に行い、書類選考及び小論文・口述試験の結果を総合して合否を判定する。
理 学 部	第1次選考合格者に対し、志望学科による口述試験(生物学科については小論文試験も課す。)を平成5年12月1日(水)に行い、書類選考及び口述試験(生物学科は小論文も含む。)の結果を総合して合否を判定する。
生活科学部	第1次選考合格者に対し、志望学科による口述試験を平成5年12月1日(水)に行い、書類選考及び口述試験の結果を総合して合否を判定する。

注 第1次選考合格者は、指定された時間までに「第1次選考合格通知書」及び「受験票」を持参の上、下記事務部に集合し係員の指示に従うこと。

文教育学部志願者	文教育学部事務部(文教育学部1号館)
理学部志願者	理学部事務部(理学部2号館)
生活科学部志願者	生活科学部事務部(生活科学部本館)

8. 合格発表等

- (1) 合格者の発表は、平成5年12月10日(金)午後、学内本部棟前掲示板に発表するとともに、合格者には「合格通知書」及び「入学関係書類」を、合格とならなかった者には「結果通知書」を送付し、併せて推薦高等学校長に被推薦者の合否を文書で通知する。(注 電話等による合否の問い合わせには一切応じない。)
- (2) 合格者は、本学及び他の国公立大学(私立産業医科大学を含む。)を受験することはできない。

9. 入学手続

- (1) 入学手続は、平成5年12月24日(金)・12月27日(月)に完了すること。
入学手続を所定の期日までに完了しない場合は、入学を辞退した者として取り扱う。
- (2) 合格者が極めて特殊な事情により入学を辞退する場合は、入学手続に替えて、平成6年2月15日(火)までに、その理由を付した本学学長あての「推薦入学辞退願」(様式任意)を推薦をうけた高等学校長の連署を得て、当該学部の事務部に提出すること。
入学辞退が許可されない場合には、本学及び他の国公立大学(私立産業医科大学を含む。)を受験しても入学許可は得られないので注意すること。
- (3) 入学手続には、次の関係書類等が必要なので手続当日持参(代理人でも可)すること。
- ① 提出書類 誓書・保証書
 - ② 入学料 260,000円
- なお、授業料[前期分205,800円(年額411,600円)]の納入時期については、別途通知する。

10. 合格とならなかった者の取扱い

合格とならなかった者で、一般志願者として国公立大学(私立産業医科大学を含む。)を受験しようとする者は、A日程、前期日程の大学・学部から1つ、B日程、後期日程の大学・学部から1つの合計2つの大学・学部に出願することができる。

出願に当たっては、各大学・学部等により大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等が異なる場合があるので特に注意すること。

本学に出願する場合は、別途「平成6年度お茶の水女子大学学生募集要項(細目)」(11月中旬から配付予定)により、所定の出願書類等を平成6年1月24日(月)から2月1日(火)の期間内に、本学所定の封筒を用い書留速達で当該学部の事務部あてに郵送すること。

なお、推薦入学と同じ学部に出願する者は、必要関係書類等のうち、次に記載する書類等を郵送すればよい。

- ① 出願カード(「大学入試センター試験成績請求票(A用)又は(B用)」を貼付したもの。)
- ② 入学志願者マーク・カード
- ③ 検定料 15,000円
- ④ 検定料納付書
- ⑤ 受験票返送用封筒
- ⑥ 合格通知先あて名票

11. 出願等に関する問い合わせ先

出願等に関して不明な点があるときは、郵便により、返信用封筒(切手貼付のこと。)を同封して、下記あてに問い合わせること。

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 文教育学部事務部

お茶の水女子大学 理学部事務部

お茶の水女子大学 生活科学部事務部

II. 大 学 案 内

1. 大学の概要

本学は広く知識を修得するとともに深く専門の学術をきわめ、知的・道徳的及び応用的能力を展開することを目的とし、新時代における文化の発展をはかる指導的女性を養成することを使命とする。

本学は、明治8年本郷湯島（現文京区湯島3丁目）、現在の御茶ノ水駅近くに東京女子師範学校として開校された。しかし大正12年の関東大震災により全校舎が焼失したため、昭和7年から11年にかけて現在地に移転した。昭和24年国立学校設置法が公布され、東京女子高等師範学校からお茶の水女子大学となり、文学部と理家政学部の2学部が設置された。昭和25年文学部、理家政学部の2学部が文教育学部、理学部、家政学部の3学部となった。また、昭和43年家政学部に家庭経営学科が設置され、昭和52年に文学部が国文学科と外国文学科に改組、昭和57年に教育学科が教育学科と舞踊教育学科に改組、平成2年理学部に情報科学科が設置された。平成4年10月には家政学部に生活科学部に改組された。

学部課程に続き更に専門分野の学識を深化し、研究能力を得させるために、大学院修士課程（2年制）の人文科学、理学及び家政学の3研究科が設けられている。これらの各研究科の中は各学部、学科に相当する各専攻に分かれる。学部・学科を構成する教官組織は修士講座制が採用されており、専門別の研究、教育が緻密に進められている。修士課程には、本学学部出身者以外に他大学からの進学者も多数いるのが現状である。

学部及び修士課程の各専門分野を基礎としてその上に本学を特徴づける独自の大学院として博士課程「人間文化研究科（比較文化学専攻・人間発達学専攻・人間環境学専攻）」（3年制）が設置されている。これは専門の枠を超えた高度の学際的研究を行う創造的能力をもった研究者を養成する機関であり、全学的な総合組織として活動している。

学内共同教育研究施設等としては、女性文化研究センター、生活環境研究センター及び情報処理センターがある。

各科学年別に補導委員があり、学生の学習その他学生生活全般に対する相談に応じている。

[文教育学部]

哲学、史学、地理学、国文学、外国文学、教育学、舞踊教育学の7学科から成り、外国文学科はさらに、中国文学・中国語学、英文学・英語学、仏文学・仏語学の3専攻に分かれ、また、教育学科は教育学、心理学、舞踊教育学科は舞踊教育学、音楽教育学の各2専攻に分かれている。

文教育学部は、上記の各学科・専攻からも知られるように、人文科学・社会科学・教育学の基礎的知識と研究方法を教授し、各分野のそれぞれに研究が進められている。

文教育学部という学部名称は全国大学学部の中で唯一のものであり、単純に文学部と教育学部が、結合したものではなく、機能的内容を持っていることに特色がある。各学科で開講されている講義演習さらにラテン語、ギリシャ語等を含む学部共通の講義を含め、多数の教官により多様多彩の講義が用意されている。学生の積極的学習意欲に対しては、できるだけ応ずる姿勢があるので、専攻分野に深く習熟すると共に、人間形成のために広く教養を身につけることが望まれる。

なお、さらに研究を志す者には、大学院人文科学研究科（修士課程）に進学する道も開かれている。

[理 学 部]

国公立の女子大学のなかで、理学部をもつ大学は少なく、貴重な存在である。数学科・物理学科・化学科・生物学科に加えて、平成2年度から情報科学科が設置され、現在5学科からなっている。数学と情報科学を含む自然科学の基礎を教育、研究し、人類の将来の展望をひらくという社会のニーズにこたえる人材を供給しつづけている。

円となっている。この他に各都道府県、民間団体等で奨学金制度を設けているところがある。これらを希望する者は、出身地の教育委員会や本学学生課に照会すること。

6. 学生教育研究災害傷害保険

大学の教育研究活動中における不慮の災害事故により学生のうけた傷害に対する救済措置として、財団法人内外学生センターが保険契約者となり東京海上火災保険株式会社を幹事会社とする国内損害保険会社との間に一括契約するものである。

保険料と保険期間

保険期間	保険料適用区分		保険期間	保険料適用区分	
	文教育学部	理学部・生活科学部		文教育学部	理学部・生活科学部
1年間	650円	900円	3年間	1,800円	2,350円
2年間	1,200円	1,600円	4年間	2,300円	3,000円

保険料は入学手続期間中に徴収しており、本学学生のほぼ全員が加入している。

7. 学 寮

お茶の水女子大学に入学後、自宅（親許）からの通学が困難なため学寮に入寮を希望する者は、下記により入寮関係書類を配付するので申し出ること。

なお、本学にある学寮は次のとおりであるが、新入生が入寮できるのは大山寮のみであり、自宅（親許）からの通学時間が概ね2時間以上を要し、かつ経済的必要度の高い者から書類により選考する。

学 寮 名	所在地	収容人員	構 造	給 食	1か月寮費	対象学生
小石川寮	文京区大塚	80人	鉄筋コンクリート4階 個 室	な し	寄宿料 3,000円 その他光熱水料 等、約 5,000円	3-4 年生 大学院生
大 山 寮	板橋区仲町	332人	鉄筋コンクリート4階 4人部屋	1日2食 (除く、土 日祝祭日)	寄宿料 700円 その他光熱水料 、給食費等 約15,000円	新 入 生 在 学 生

● 入寮関係書類配付日時等

入寮関係書類は、入学手続時に配付する。

● そ の 他

入寮関係書類受領後は、入寮申請要領等を熟読のうえ、提出期日に支障のないように準備しておくこと。

なお、学寮入寮募集等について質問がある場合は、下記に照会すること。

お茶の水女子大学学生課厚生係 TEL (03)3943-3151 内線 261・266

8. 下宿・貸間の紹介

大学周辺の貸間代は、1畳当たり約 6,000円見当であるが、アパート形式が多く『賄付』はほとんどない。大学周辺の貸間等の紹介については、3月末に学生課から資料が提示されるが、物件数等は必ずしも十分とはいえないので親戚知人等の安心できる住居を確保するように心掛けて欲しい。

9. 課外活動

大学の4か年在学中、勉学の余暇を利用して正課以外の学術・社会・芸術・スポーツ・レクリエーションなどに関する活動に参加する経験は、豊かな人間性を涵養するために重要な意味を持っている。

本学には、現在文化系26サークル、体育系21サークルがあり、顧問教官の指導と助言のもとに自主的に活発な活動が行われている。

10. 保健管理センター

本センターは、学部・大学院生（約 2,800名）と本学教職員（約 400名）の健康管理及びカウンセリングサービスに当たり、職員2名（常勤内科医1名を含む。）と校医3名（婦人科・精神科医等）が配置されている。

主要な事業は、(1)定期及び臨時健康診断、(2)救急及び第一次医療サービス、(3)学生相談（一般・就職・進学・精神衛生）であって、診療件数は月平均 1,000件にのぼる。

11. 食堂・売店

学生や教職員の厚生施設の一つとして、お茶の水女子大学食堂及び売店があり、本学が消費生活協同組合に委託し、市価よりも安い価格で需要に応じている。

12. 学外施設

志賀高原体育運動場

所在地 長野県下高井郡山ノ内町字東館7149

館山野外教育施設

所在地 千葉県館山市香字長通11

○平成6年度 お茶の水女子大学私費外国人留学生（学部留学生）
募 集 要 項

1. 募集学部・学科・人員

文教育学部	哲学科、史学科、地理学科、国文学科、外国文学科（中国文学・中国語学、英文学・英語学）、教育学科（教育学、心理学）、舞踊教育学科（舞踊教育学、音楽教育学）	各学部・学科 とも若干名
理 学 部	数学科、物理学科、化学科、生物学科、情報科学科	
生活科学部	生活環境学科、人間生活学科	

2. 出願資格

下記に該当する外国人女子で、平成5年度日本語能力試験（1級）及び平成6年度私費外国人留学生統一試験を受験した者

○外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部大臣の指定した者

なお、日本において高等学校を卒業又は同等以上の資格を得た者は、日本人学生と同様に取り扱う。

3. 出願手続

(1) 出願方法

入学志願者（代理人でも差し支えない。）は、出願期間内に下記(3)の出願書類等を持参のうえ提出すること。

(2) 出 願 先

東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 学務課留学生係

（地下鉄丸ノ内線 茗荷谷駅下車 徒歩5分）
（地下鉄有楽町線 護国寺駅下車 徒歩5分）

(3) 出願書類等

ア. 出願カード（本学所定の用紙を用い、写真貼付のこと。）

イ. 最終出身校の成績証明書、卒業証明書及び関係教官の推薦書

ウ. 日本語による自筆の作文（1,000字以内で、留学の目的、専攻分野の内容、将来の計画等について。）

エ. 平成5年度日本語能力試験（1級）及び平成6年度私費外国人留学生統一試験の受験票の写し

オ. 健康診断書（本学所定の用紙を用い、出願3か月以内に作成したもの）

カ. 出願時に日本国内に在住している者………外国人登録済証明書（在留資格・在留期間明記のもの）

出願時に日本国外に在住している者………戸籍謄本又は出生証明書等

キ. 検定料 15,000円

ク. 受験票返送用封筒（本学所定の封筒に272円切手を貼付し、志願者名票の「日本国内の連絡先」の住所、氏名及び郵便番号を明記すること。）

ケ. あて名票（合格通知その他に使用するので、本学所定の用紙に志願者名票の「日本国内の連絡先」の住所、氏名及び郵便番号を明記すること。郵便切手は貼付しないでよい。）

4. 出願期間

平成5年(1993年)12月13日(月)～12月21日(火)

(受付時間) 10時～11時30分、13時～15時

5. 私費外国人留学生統一試験で受験を要する科目等

学 部	学 科	受 験 を 要 す る 科 目	受 験 を 要 す る 科 目 数
文教育学部	国 文 学 科 外 国 文 学 科 (中国文学・中国語学) (英文学・英語学)	文 科 系	全 科 目
	そ の 他 の 学 科	文科系又は理科系のいずれかを選択	全 科 目
理 学 部	全 学 科	理 科 系	全 科 目
生活科学部	生 活 環 境 学 科	理 科 系	全 科 目
	人 間 生 活 学 科	文科系又は理科系のいずれかを選択	全 科 目

6. 入学者の選抜方法

- (1) 志願者全員に本学の入学試験を課し、その結果と私費外国人留学生統一試験及び日本語能力試験(1級)の成績、最終出身校の成績証明書並びに健康診断書等により総合して合格者を判定する。
- (2) 「お茶の水女子大学受験票」は、「受験者心得」とともに、平成6年(1994年)2月10日(木)頃発送する。なお、2月16日(水)を過ぎても到着しないときは、学務課留学生係へ問い合わせること。
- (3) 受験の際は、「お茶の水女子大学受験票」を必ず持参すること。

7. 本学の入学試験

- (1) 期 日 平成6年(1994年)2月25日(金)、26日(土)
- (2) 試験場 お茶の水女子大学(東京都文京区大塚2丁目1番1号)
- (3) 学力検査

志願する学部・学科		学 力 検 査 科 目
文 教 育 学 部	国 文 学 科	国語(国語Ⅰ・Ⅱ、古典) 日本語 外国語(英語Ⅰ・Ⅱ・ⅡB、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
	外 国 文 学 科 (英文学・ 英語学)	日本語 外国語(英語Ⅰ・Ⅱ・ⅡB)
	舞 踊 教 育 学 科 (舞踊教育学)	日本語 外国語(英語Ⅰ・Ⅱ・ⅡB、ドイツ語、フランス語から1か国語選択) ※ 上記学力検査のほかに、実技検査を行う。

志願する学部・学科		学 力 検 査 科 目
文 教 育 学 部	舞踊教育学科 (音楽教育学)	日本語 外国語(英語Ⅰ・Ⅱ・ⅡB、ドイツ語、フランス語から1か国語選択) ※ 上記学力検査のほかに、実技検査を行う。
	その他の学科	日本語 外国語(英語Ⅰ・Ⅱ・ⅡB、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
理	数 学 科	数学(数学Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、微分・積分、確率・統計*) 日本語 外国語(英語Ⅰ・Ⅱ・ⅡB、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
	物 理 学 科	数学(数学Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、微分・積分、確率・統計*) 理科(物理) 日本語 外国語(英語Ⅰ・Ⅱ・ⅡB、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
学 部	化 学 科	数学(数学Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、確率・統計*) 理科(「化学」と「物理、生物から1科目選択」) 日本語 外国語(英語Ⅰ・Ⅱ・ⅡB、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
	生 物 学 科	数学(数学Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、確率・統計*) 理科(「生物」と「物理、化学から1科目選択」) 日本語 外国語(英語Ⅰ・Ⅱ・ⅡB、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
	情 報 科 学 科	数学(数学Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、微分・積分、確率・統計*) 理科・数学(「物理」、「化学」、「生物」、 「数学Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、微分・積分、 確率・統計*」から2科目選択) 日本語 外国語(英語Ⅰ・Ⅱ・ⅡB、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
生 活 科 学 部	生 活 環 境 学 科	数学(数学Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、確率・統計*) 日本語 外国語(英語Ⅰ・Ⅱ・ⅡB、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
	人 間 生 活 学 科	日本語 外国語(英語Ⅰ・Ⅱ・ⅡB、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)

(注) 学力検査科目欄の外国語(英語、ドイツ語、フランス語)は、母国語を選択することはできない。

* 数学のうち確率・統計については、日本の高等学校学習指導要領の確率・統計の内容のうち「(1)資料の整理」、「(4)確率分布」及び「(5)統計的な推測」を除く。

(4) 実技検査

○ 舞踊教育学志望者に次の2種の検査を行う。

- ① ダンス（全員に課する）
 ア. 与えられた基礎運動
 イ. 創作（各種舞踊に基づいた創作も可）
 ② スポーツ（次のア～オから1種目を選択）
 ア. 陸上競技（短距離走及び走り幅跳び）
 イ. 器械運動（マット運動）
 ウ. バレーボール
 エ. バスケットボール
 オ. テニス（硬式又は軟式）

※ 本学所定の実技関係の調査用紙「そのⅠ スポーツの選択種目に関する調査」及び「そのⅡ 舞踊と体育活動に関する調査」を本人が記入し、出願書類と一緒に提出すること。

※ 実技試験に必要な服装、靴、用具を持参のこと。

○ 音楽教育学志望者に次の検査を行う。

- ① ソルフェージュ
 ア. 聴音：1～4声部
 イ. 新曲視唱
 ② 声楽
 下記の（i）、（ii）、（iii）のいずれか一つを選び、暗譜で演奏すること。
 （i）イタリア古典歌曲（原語）1曲を自由選択
 （ii）イタリア古典歌曲（原語）1曲〔（i）に同じ〕、及び日本歌曲1曲をそれぞれ自由選択
 （iii）イタリア古典歌曲（原語）1曲〔（i）に同じ〕、及びアリア（原語・原調）1曲を自由選択
 なお、声楽は伴奏用楽譜を必要とするので、受験者は必ず楽譜（複写譜も可）に氏名を明記して出願書類と一緒に提出すること。（返却しない。）
 ③ ピアノ
 下記の（i）、（ii）、（iii）のいずれか一つを選び、暗譜で演奏すること。繰返しはしないこと。
 （i）J. S. バッハ作曲の鍵盤音楽（3分以内）から1曲を自由選択
 （ii）J. S. バッハの作品1曲〔（i）に同じ〕、及びベートーヴェンのピアノソナタから一つの楽章を自由選択（ただし、緩徐楽章を除く。）
 （iii）J. S. バッハの作品1曲〔（i）に同じ〕、及びショパンの練習曲集（作品10、作品25）から2曲を自由選択

(5) 口述試験

各学部とも口述試験を行う。

(6) 入学試験日時割

学科		日時		2月25日(金)		2月26日(土)			
文 教 育 学 部	国文学科	国語 10:00 ~ 11:40		/		日本語 10:00 } 11:40	外国語 13:10 } 14:50	口述試験 15:20 ~	実技検査
	舞踊教育学科 (舞踊教育学)	/							
	舞踊教育学科 (音楽教育学)								
	上記以外の学科								
理 学 部	数学科	数学 13:10 ~ 15:10		/		日本語 10:00 } 11:40	外国語 13:10 } 14:50	口述試験 15:20 ~	実技検査
	物理学科	数学・物理 13:10 ~ 16:10							
	化学科	数 学 10:00 ~ 11:40 化学・選択(物理、生物) 13:10 ~ 16:10							
	生物学科	生物・選択(物理、化学) 13:10 ~ 16:10							
	情報科学科	数学・選択(数学・物理・ 化学・生物) 13:10 ~ 16:10							
生 活 科 学 部	生活環境学科	数 学 10:00 ~ 11:40		/		日本語 10:00 } 11:40	外国語 13:10 } 14:50	口述試験 15:20 ~	実技検査
	人間生活学科	/							

* 受験上の注意等については、受験票送付の際に同封する。

8. 合格発表

平成6年(1994年)3月9日(水)午後 学内本部棟前掲示板に発表する。

合格者には、発表当日、「日本国内の連絡先」あてに合格通知書を郵送する。

9. 入学手続等

(1) 入学手続日

学 部	手 続 日	手 続 時 間	手 続 場 所
全 学 部	3月11日(金)	10:00~12:00, 13:00~16:00	本学一般教育2号館
	3月14日(月)	〃	〃
	3月25日(金)	〃	〃
	3月28日(月)	〃	〃

(注) 上記「手続日」欄に示したいずれかの日時に、入学手続を行うこと。

所定の期日までに手続をしない者は、入学を辞退した者として取り扱う。

(2) 手続事項

提出書類	お茶の水女子大学受験票
入 学 料	260,000円
授 業 料	<p>前期分 205,800円〔年額 411,600円〕 (注1) 前期分の授業料を上記手続期間中に納入しないときは、4月1日から4月30日までの間に納入することになる。 (注2) 入学手続終了者が3月31日までに入学を辞退した場合には、納付した者の申し出により当該授業料相当額を返還する。 (注3) 授業料の納付については、希望により前期分の納付の際に後期分も合わせて納付することができる。</p>

10. 注意事項

- (1) 提出書類に不備不足等がある場合は提出書類を受理しない。
- (2) いったん提出し、又は納入した書類・入学検定料は、返還しない。
- (3) 可否に関しての電話による問い合わせには応じない。

11. 受験に関する問い合わせ先

お茶の水女子大学 学務課留学生係
 〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号
 ☎ 03-3943-3151(代表) 内線 253

○平成6年度 お茶の水女子大学帰国子女
特別選抜募集要項

1. 募集学部・学科及び募集人員

学 部	学 科	募 集 人 員
理 学 部	数 学 科	入学定員のうち若干名

2. 出願資格

平成5年度末までに高等学校を卒業又は卒業見込み[※]の女子で、外国において2年以上継続して外国の正規の学校教育を受けた者。

ただし、帰国してから出願までの期間は、外国での正規の学校在学期間をこえないこと。

※ 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又は修了見込みの者を含む。

(注) 外国に設置されたものであっても、日本の学校教育に準拠した教育を施している学校に在学した者については、外国において学校教育を受けたものとはみなさない。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	帰国子女特別選抜 志願者票 *本学所定の用紙	必ず本人が記入すること。 (縦4センチ、横3センチの写真を貼付すること。)
2	帰国子女特別選抜 出願カード *本学所定の用紙	受験票及び写真票 (縦4センチ、横3センチの写真を貼付すること。)
3	あて名票3枚	合格通知等に使用するので、本学所定の用紙に日本国内の連絡先の住所・氏名・郵便番号を記入すること。(切手不要)
4	最終出身校卒業(修了) 証明書又は卒業(修了) 見込み証明書(1通)	高等学校(日本の高等学校に相当する課程をいう。(以下「高等学校」という。))長の作成したもの。
5	成績証明書又は調査書	高等学校長が作成し厳封したもの。 ただし、成績証明書記載事項のうち科目名、成績評価等が符号または略字により表示されている場合には、必ずその説明を付すること。
6	在籍証明書	在籍した外国の学校のそれぞれの学校長が作成したもの。

7	健康診断書 * 本学所定の用紙	出願3か月以内に作成したもの。ただし、平成5年3月から平成6年3月までに日本の高等学校卒業又は卒業見込みの者は提出しなくてよい。
8	検定料	郵便局振り出しの15,000円の「普通郵便為替(平成5年10月1日以降に発行されたもの)」として受取人指定欄に「お茶の水女子大学」とのみ記入すること。出願時に海外に在住する者は、「日本国内の連絡先」の者に依頼して郵便為替にすること。 注1. 第1次選考の不合格者に対しては、12,000円を返還する。 2. 上記1の該当者は平成6年3月31日までに申し出ること。(返還手続の方法は第1次選考の結果とともに通知する。) なお、上記1の場合以外は、いかなる理由があっても既納の検定料は返還しない。
9	検定料納付書 (原符・領収証書) * 本学所定の用紙	「原符・領収証書」に必要事項を記入すること。
10	受験票返送用封筒 * 本学所定の封筒	封筒に272円切手(速達料を含む)を貼付し、志願者名票の「日本国内の連絡先」の住所、氏名及び郵便番号を明記すること。

注1：出願書類に記載事項の記入もれその他不備の場合は、出願書類を受理しない。また、一旦受理した出願書類の出願事項の変更、返却は認めない。

注2：出願書類のうち日本語以外の国語で書かれた証明書等については、その日本語訳を添付すること。ただし、外国の学校の成績証明については、添付可能なものとする。

(2) 出願方法

① 出願書類を一括して、本学所定の封筒を用い、書留速達で出願期間内に必ず着くように郵送すること。

② 送付先 〒112 東京都文京区大塚2-1-1
お茶の水女子大学 理学部 事務部

(3) 受験票の送付

① 出願書類を受け付けた者に対しては「受験票」を送付する。

② 「受験票」は検定料の「領収証書」とともに11月上旬に送付する。

注：大学からの連絡、受験票の送付、第1次選考、第2次選考の結果通知等は、すべて志願者名票の「日本国内の連絡先」欄に記載の住所・氏名あてに行う。

4. 出願期間

平成5年10月18日(月)から11月1日(月)まで(期間内に必着するよう郵送すること。)

5. 選抜方法

入学者の選抜は、次の第1次選考、第2次選考に分けて行う。

第1次選考 : 出願書類を資料として行う。

なお、第1次選考結果は、平成5年11月24日(水)までに、合格者には「第1次選考合格通知書」を、合格とならなかった者には「第1次選考結果通知書」及び「検定料返還金請求書」を送付する。

第2次選考 : 第1次選考合格者に対し、学力試験(数学、日本語による小論文)及び口述試験を次のとおり行う。

学力試験・口述試験実施日時・試験場

月 日(曜)	教 科 等	時 間	試 験 場
12月1日(水)	数 学 (数学Ⅰ、代数・幾何、 基礎解析、微分・積分)	9時30分～10時40分	お茶の水女子大学 理学部2号館
	小 論 文	11時00分～12時00分	
	口 述	13時00分～	

注：第1次選考合格者は、9時までに「第1次選考合格通知書」及び「受験票」を持参の上、理学部事務部(理学部2号館)に集合し係員の指示に従うこと。

6. 合格発表等

合格者の発表は、平成5年12月10日(金)午後、学内本部棟前掲示板に発表するとともに、合格者には届け出のあった「合格通知先」あてに「合格通知書」及び「入学関係書類」を送付する。

合格とならなかった者には「結果通知書」を送付する。

〔注意〕 帰国子女のための入学者選抜については、本学では「特別選抜」として実施するため、この選抜で合格した者は、指定の期日に入学手続を行うこと。

なお、合格者で特別な事情により本学への入学を辞退しようとする者は、平成5年12月21日(火)までに、その理由を付した本学学長あての「帰国子女特別選抜入学辞退届」(様式任意)を理学部事務部に提出すること。

7. 入学手続等

(1) 合格者は平成5年12月24日(金)又は12月27日(月)のいずれかの日に入学手続を行うこと。受付時間は両日とも午前10時から午後4時までとする。

(2) 入学手続には、次の書類及び経費を直接持参（代理人でも可）すること。

①提出書類 「誓書」、「保証書」

②入 学 料 260,000円

なお、授業料〔前期分205,800円（年額411,600円）〕の納入時期については、別途通知する。

〔注意〕 本学に入入学手続を完了した者は、これを取り消して他の国公立大学（私立産業医科大学を含む。）に入入学手続をすることはできない。

8. 合格とならなかった者の一般選抜への出願

帰国子女特別選抜に合格とならなかった者で、本学の一般選抜の入学試験を受験しようとする者（平成6年度大学入試センター試験において、本学各学部が指定した各教科・科目を受験した者に限る。）は、「お茶の水女子大学学生募集要項（細目）」（11月中旬から交付予定）により、再度出願することができる。なお、理学部に出願する者は、必要関係書類等のうち、次に記載する書類等を郵送すればよい。

① 出願カード（「大学入試センター試験成績請求票（印用）」を貼付したもの。）

② 入学志願者マーク・カード

③ 検定料 15,000円

④ 検定料納付書

⑤ 受験票返送用封筒

9. 出願等に関する問い合わせ先

出願等に関して不明な点があるときは、郵便により、返信用封筒（切手貼付のこと）を同封して、お茶の水女子大学理学部事務部に問い合わせること。

II. 大 学 案 内

1. 大学の概要

本学は広く知識を修得するとともに深く専門の学術をきわめ、知的・道徳的及び応用的能力を展開することを目的とし、新時代における文化の発展をはかる指導的女性を養成することを使命とする。

本学は、明治8年本郷湯島（現文京区湯島3丁目）、現在の御茶ノ水駅近くに東京女子師範学校として開校された。しかし大正12年の関東大震災により全校舎が焼失したため、昭和7年から11年にかけて現在地に移転した。昭和24年国立学校設置法が公布され、東京女子高等師範学校からお茶の水女子大学となり、文学部と理家政学部の2学部が設置された。昭和25年文学部、理家政学部の2学部が文教育学部、理学部、家政学部の3学部となった。また、昭和43年家政学部に家庭経営学科が設置され、昭和52年に文学部が国文学科と外国文学科に改組、昭和57年に教育学科が教育学科と舞踊教育学科に改組、平成2年理学部に情報科学科が設置された。平成4年10月には家政学部に生活科学部に改組された。

学部課程に続き更に専門分野の学識を深化し、研究能力を得させるために、大学院修士課程（2年制）の人文科学、理学及び家政学の3研究科が設けられている。これらの各研究科の中は各学部、学科に相当する各専攻に分かれる。学部・学科を構成する教官組織は修士講座制が採用されており、専門別の研究、教育が緻密に進められている。修士課程には、本学学部出身者以外に他大学からの進学者も多数いるのが現状である。

学部及び修士課程の各専門分野を基礎としてその上に本学を特徴づける独自の大学院として博士課程「人間文化研究科（比較文化学専攻・人間発達学専攻・人間環境学専攻）」（3年制）が設置されている。これは専門の枠を超えた高度の学際的研究を行う創造的能力をもった研究者を養成する機関であり、全学的な総合組織として活動している。

学内共同教育研究施設等としては、女性文化研究センター、生活環境研究センター及び情報処理センターがある。

各学科学年別に補導委員があり、学生の学習その他学生生活全般に対する相談に応じている。

〔文教育学部〕

哲学、史学、地理学、国文学、外国文学、教育学、舞踊教育学の7学科から成り、外国文学科はさらに、中国文学・中国語学、英文学・英語学、仏文学・仏語学の3専攻に分かれ、また、教育学科は教育学、心理学、舞踊教育学科は舞踊教育学、音楽教育学の各2専攻に分かれている。

文教育学部は、上記の各学科・専攻からも知られるように、人文科学・社会科学・教育学の基礎的知識と研究方法を教授し、各分野のそれぞれに研究が進められている。

文教育学部という学部名称は全国大学学部の中で唯一のものであり、単純に文学部と教育学部が、結合したものではなく、機能的内容を持っていることに特色がある。各学科で開講されている講義演習さらにラテン語、ギリシャ語等を含む学部共通の講義を含め、多数の教官により多様多彩の講義が用意されている。学生の積極的学習意欲に対しては、できるだけ応ずる姿勢があるので、専攻分野に深く習熟すると共に、人間形成のために広く教養を身につけることが望まれる。

なお、さらに研究を志す者には、大学院人文科学研究科（修士課程）に進学する道も開かれている。

〔理 学 部〕

国公立の女子大学のなかで、理学部をもつ大学は少なく、貴重な存在である。数学科・物理学科・化学科・生物学科に加えて、平成2年度から情報科学科が設置され、現在5学科からなっている。数学と情報科学を含む自然科学の基礎を教育、研究し、人類の将来の展望をひらくという社会のニーズにこたえる人材を供給しつづけている。

本学部附置の臨海実験所（館山）、ラジオアイソトープ実験室、極低温実験室、組換えDNA実験室のほか、全学附置の情報処理センターも利用し、豊かな教官スタッフによる少人数教育の実績を内外にほこっている。

理学部の各学科の専門分野を更に深く専攻できるように、大学院理学研究科（修士課程）が設けられ、中堅研究者を育てている。大学院へ進学する学部卒業生の割合は3学部のなかでは現在もとも高く、かつ増えつつげている。

〔生活科学部〕

わが国の人々の生活のより一層の向上と物心両面の充実に資することを目的とし、人間生活の科学を大きく自然科学的分野と社会・人文科学的分野とに分け、前者を生活環境学科、後者を人間生活学科とした生活科学部を組織する。生活環境学科は、高度に科学化された現代の生活資材の生産とその生活への利用や、生態系の一員としての人間の健康と生存に関して自然科学的に対応しうる能力を有した人材を社会に供給する。そのため、生活工学講座、食物科学講座、人間科学講座を設定する。

人間生活学科は長寿社会となったわが国の人々の時間的、空間的に拡大した人生をより幸福に生きるための個人的社会的条件を探究する専門家や、実践家を社会に提供する。そのため、発達臨床学講座、生活社会科学講座、生活文化学講座を設定する。

各学科の紹介等は、お茶の水女子大学大学案内に記載されているので、希望者は下記あてに請求すること。

請求先 : お茶の水女子大学 入学主幹室

請求方法 : 250円切手を貼った返信用封筒角型2号(23.9×33.1cm)を同封のこと

2. 学 費

入 学 料	260,000円
授 業 料	前期分 205,800円 (年額 411,600円)

(注) 授業料の納付については、希望により前期分の納付の際に後期分も合わせて納付することが出来る。

3. 入学科免除

本学に入学する者で入学前1年以内において、主たる学資負担者が死亡し、又は本人若しくは主たる学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより入学料の納付が著しく困難な者については、納付前に免除申請をすることにより入学料の全額又は半額が免除されることがある。

4. 授業料免除

学業成績優秀で経済的理由のため授業料の納付が著しく困難な学生については、年度を2期に分け当該期分ごとに選考の上、授業料の全額又は半額が免除される。ただし、納付済の者は免除の対象としない。

5. 奨 学 金

学業成績・人物ともに優秀、身体強健でかつ経済的事情のため学費の支弁が困難な学生には選考の上、日本育英会から奨学金が貸与される。

現在、貸与額は第1種奨学生、第2種奨学生ともに自宅通学生が32,000円、自宅外通学生が38,000

円となっている。この他に各都道府県、民間団体等で奨学金制度を設けているところがある。これらを希望する者は、出身地の教育委員会や本学学生課に照会すること。

6. 学生教育研究災害傷害保険

大学の教育研究活動中における不慮の災害事故により学生のうけた傷害に対する救済措置として、財団法人内外学生センターが保険契約者となり東京海上火災保険株式会社を幹事会社とする国内損害保険会社との間に一括契約するものである。

保険料と保険期間

保険期間	保険料適用区分		保険期間	保険料適用区分	
	文教育学部	理学部・生活科学部		文教育学部	理学部・生活科学部
1年間	650円	900円	3年間	1,800円	2,350円
2年間	1,200円	1,600円	4年間	2,300円	3,000円

保険料は入学手続期間中に徴収しており、本学学生のほぼ全員が加入している。

7. 学 寮

お茶の水女子大学に入学後、自宅（親許）からの通学が困難なため学寮に入寮を希望する者は、下記により入寮関係書類を配付するので申し出ること。

なお、本学にある学寮は次のとおりであるが、新入生が入寮できるのは大山寮のみであり、自宅（親許）からの通学時間が概ね2時間以上を要し、かつ経済的必要度の高い者から書類により選考する。

学寮名	所在地	収容人員	構造	給食	1か月寮費	対象学生
小石川寮	文京区大塚	80人	鉄筋コンクリート4階 個室	なし	寄宿料 3,000円 その他光熱水料等、約 5,000円	3-4年生 大学院生
大山寮	板橋区仲町	332人	鉄筋コンクリート4階 4人部屋	1日2食 (除く、土日祝祭日)	寄宿料 700円 その他光熱水料、給食費等 約15,000円	新入生 在学生

● 入寮関係書類配付日時等

入寮関係書類は、入学手続時に配付する。

● その他

入寮関係書類受領後は、入寮申請要領等を熟読のうえ、提出期日に支障のないように準備しておくこと。

なお、学寮入寮募集等について質問がある場合は、下記に照会すること。

お茶の水女子大学学生課厚生係 TEL (03)3943-3151 内線 261・266

8. 下宿・貸間の紹介

大学周辺の貸間代は、1畳当たり約 6,000円見当であるが、アパート形式が多く『賄付』はほとんどない。大学周辺の貸間等の紹介については、3月末に学生課から資料が提示されるが、物件数等は必ずしも十分とはいえないので親戚知人等の安心できる住居を確保するように心掛けて欲しい。

9. 課外活動

大学の4か年在学中、勉学の余暇を利用して正課以外の学術・社会・芸術・スポーツ・レクリエーションなどに関する活動に参加する経験は、豊かな人間性を涵養するために重要な意味を持っている。

本学には、現在文化系26サークル、体育系21サークルがあり、顧問教官の指導と助言のもとに自主的に活発な活動が行われている。

10. 保健管理センター

本センターは、学部・大学院生（約 2,800名）と本学教職員（約 400名）の健康管理及びカウンセリングサービスに当たり、職員2名（常勤内科医1名を含む。）と校医3名（婦人科・精神科医等）が配置されている。

主要な事業は、(1)定期及び臨時健康診断、(2)救急及び第一次医療サービス、(3)学生相談（一般・就職・進学・精神衛生）であって、診療件数は月平均 1,000件にのぼる。

11. 食堂・売店

学生や教職員の厚生施設の一つとして、お茶の水女子大学食堂及び売店があり、本学が消費生活協同組合に委託し、市価よりも安い価格で需要に応じている。

12. 学外施設

志賀高原体育運動場

所在地 長野県下高井郡山ノ内町字東館7149

館山野外教育施設

所在地 千葉県館山市香字長通11

○平成6年度 お茶の水女子大学大学院人文科学研究科（修士課程）
学生募集要項

1. 専攻及び募集人員

専攻名	募集人員	専攻名	募集人員
哲学専攻 哲学 倫理学 美学 社会学	8	教育学専攻 教育学 心理学	11
史学専攻 日本史学 東洋史学 西洋史学	7	舞踊教育学専攻 舞踊教育学 遊戯学 動作学 音楽学 演奏学	10
地理学専攻	6		
日本文学専攻	6		
中国文学専攻	3	※日本語文化専攻	7
英文学専攻	7	合計	65

※ 在職社会人の募集は、平成5年10月に実施済み。

2. 出願資格 下記該当の女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成6年3月卒業見込みの者
- (2) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 本研究科において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

3. 出願手続

- (1) 入学願書 用紙は本学で交付
- (2) 卒業（又は見込み）証明書
- (3) 推薦書 指導教官又は主任教官等により作成されたもの（形式随意）
- (4) 調査書 用紙は本学で交付
- (5) 健康診断書 用紙は本学で交付
- (6) 写真 正面上半身の名刺型で、出願前3か月以内に撮影したもの
願書の指定欄に貼付
- (7) 返信用封筒 郵送の場合に限り、宛先を表記し、62円切手を貼付（但し、郵便料金改訂の際は、新料金分の切手を貼付）
- (8) 受験承諾書 他大学の大学院に在学中の者は学長又は研究科長の受験承諾書
在職中の者は所属長の受験承諾書

(9) 検 定 料 26,000円

前期書類等を一括し、所定の期日までに本学に提出のこと。ただし、郵送するときは書留速達郵便とし、検定料は郵便為替で、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記し、封筒に「大学院人文科学研究科入学願書」と朱書きすること。

なお、日本語文化専攻を受験する者は次の書類を含めて所定の期日までに本学に提出のこと。

- (10) 研究報告・計画書 大学における卒業論文・卒業研究の内容及び将来の研究計画を3,000字以内にまとめたもの（用紙は本学で交付）

4. 出願期間・願書受付場所

- (1) 出願期間 平成6年1月7日（金）から1月13日（木）までの間。

ただし、土曜日、日曜日を除く。

午前9時から11時30分 午後1時から3時

郵送の場合は締切日までの消印有効

- (2) 受付場所 お茶の水女子大学文教育学部事務部

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

（地下鉄丸ノ内線 茗荷谷駅、有楽町線 護国寺駅又は都バス 大塚二丁目下車）

5. 選抜方法

入学者の選抜は、筆記試験、口述試験（実技を含む）、調査書、健康診断書等（日本語文化専攻にあっては、研究報告・計画書を含む。）の結果を総合して行う。

- (1) 選考期日 平成6年2月1日（火）～2月2日（水）

※日本語文化専攻のみ 平成6年2月1日（火）～2月3日（木）

(2) 筆記試験・口述試験時間割

専攻名等		2月1日(火) 筆記試験		2月2日(水)	備考
		外国語 10:00~11:30	専門科目 13:00~15:00	口述試験 10:00~	
哲学専攻	哲学	英・独・仏・ 中国語の中から1か国語を 選択する。た だし、中国文 学専攻志望者 が中国語を、 英文学専攻志 望者が英語を 選択すること はできない。 (注1)	哲学	(注3) 学士論文提出 可能な者は願 書と同時に提 出すること。 (注4) なお、地理学 専攻にあって は研究計画書 (様式自由、 800字以内) を必ず提出す ること。	
	倫理学		倫理学		
	美学		美学		
	社会学		社会学		
史学専攻	日本史学		日本史学		
	東洋史学		東洋史学		
	西洋史学		西洋史学		
地理学専攻	地理学				
日本文学専攻	国文学及び国語学				
中国文学専攻	中国語学及び中国文学				
英文学専攻	英語・英語学及び英米文学				
教育学専攻	教育学	教育学			
	心理学	心理学			
舞踊教育学 専攻	舞踊教育学	舞踊学及び論文 論文は志望する専攻出 題の課題を選択する。 (注2)	(注3) 舞踊実技を課す ることがある。	学士論文提出 可能な者は願 書と同時に提 出すること。 (注4) 論文に代わる ものとして演 奏を行った者 は、卒試曲目 を提出するこ と。	
	遊戯学				
	動作学				
	音楽学	西洋音楽史又は 日本音楽史	(注3) 演奏(任意の楽 器又は声、曲目 は自由)を課す ることがある。		
	演奏学		(注3) 10分程度の演奏 実技(曲目は自 由)を課する。		

専攻名	2月1日(火) 筆記試験		2月2日(水) 2月3日(木) 口述試験 10:00~	備考
	外国語 10:00~11:30	専門科目 13:00~15:00		
日本語文化専攻	英・独・仏・ 中国語の中から1か国語を 選択する。 (注1)	日本文化学 日本語教育法	主に研究報告・ 計画書にもとづ いて行う。	

注1. 外国語の選択科目については、出願の際届け出るものとする。

注2. 舞踊教育学専攻(舞踊教育学、遊戯学、動作学)志望者に課す専門科目の論文は、志望する専攻に応じ課題のうちから選択し、論文(2,000字程度)を作成する。

注3. 口述試験は、主として志望する専攻又は学士論文について行う。

注4. 学士論文を提出できない事情のある者は、その旨申し出ること。

(3) 試験場所 お茶の水女子大学(東京都文京区大塚2丁目1番1号)

6. 入学料及び授業料 入学料 260,000円 授業料年額 411,600円

7. 合格者発表 平成6年2月10日(木)12時頃、文教育学部掲示板に氏名を掲示する。

合格通知書は、文教育学部事務部で受験票を確認のうえ交付する。都合により当日来学できない合格者には、後日合格通知書を郵送する。

8. 注意事項

- (1) 出願書類等の郵送を希望する者は、250円切手を貼った返信用封筒角型2号に宛名を明記したものを同封し、封筒の表に「人文科学研究科出願書類請求」と朱書きして、本学「文教育学部事務部」へ請求すること。(但し、郵便料金改訂の際は、新料金分の切手を貼ること。)
- (2) 出願手続後は、書類の変更及び検定料の払い戻しは行わない。
- (3) 合格、不合格に関する問い合わせには一切応じない。
- (4) 「外国人留学生」に関しては、出願書類等が異なるため、本学「学生部学務課留学生係」が取り扱うので、同係に問い合わせること。

お茶の水女子大学 ☎ 03-3943-3151 (代表)

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学大学院人文科学研究科修士課程概要

1. 目的及び使命

本学大学院は本学の目的、使命に則り、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

2. 修業年限 2年

3. 専攻及び入学定員 人文科学研究科に次の専攻を置き、入学定員は次のとおりとする。

専攻名	入学定員	総定員	専攻名	入学定員	総定員
哲学専攻	8	16	英文学専攻	7	14
史学専攻	7	14	教育学専攻	11	22
地理学専攻	6	12	舞踊教育学専攻	10	20
日本文学専攻	6	12	日本語文化専攻	12	24
中国文学専攻	3	6	計	70	140

4. 授業科目履修方法及び課程の修了

- (1) 学生は2年以上在学し、それぞれの専攻の授業科目について30単位以上履修しなければならない。
ただし、研究指導を担当する教官が当該学生の研究上特に必要と認めた場合に限り、他の専攻、他研究科又は学部の授業科目を指定して履修させ、これを当該専攻の単位とすることができる。
- (2) 課程の修了には、2年以上在学し、所要の単位を修得し、かつ学位論文を提出して最終試験に合格しなければならない。

5. 学位授与

本研究科において、課程を修了した者に対しては、修士（人文科学）の学位を授与する。

6. 主要授業科目・担当教官

専攻	授 業 科 目	担 当 教 官
哲学専攻	哲学特論・演習 倫理学特論・演習 美学特論・演習 社会学特論・演習	教授 土屋賢二 教授 入田幸和 教授 尾田元雄 教授 高辻元洋 教授 秋宮山島保子 (未定) 光文
史学専攻	日本史学特論・演習 東洋史学特論・演習 西洋史学特論・演習	教授 大安勇次郎 教授 小西秀雅 教授 西澤奈津子 教授 窪添慶文 教授 三浦本秀 教授 山塚忠行 教授 新井由紀夫
地理学専攻	人文地理学特論・演習 自然地理学特論・演習 地誌学特論・演習	教授 千栗歳壽一 教授 (未定) 兵衛隆夫 教授 田宮博 教授 杉谷圭 教授 内藤藤谷
日本文学専攻	上代文学特論・演習 中代文学特論・演習 中世文学特論・演習 近世文学特論・演習 現代文学特論・演習 国語学特論・演習	教授 岩平千鶴 教授 三野由紀 教授 市木夏常 教授 浅井清 教授 大塚樹 教授 大塚樹 教授 大塚樹 教授 大塚樹 教授 大塚樹 教授 大塚樹 教授 大塚樹
中国文学専攻	中国文学特論・演習 中国語学特論・演習	教授 佐藤藤樹 教授 宮尾正和 教授 藤山原茂 教授 藤原山原茂
英文学専攻	英文学特論・演習 米文学特論・演習 英語学特論・演習	教授 野内島秀勝 教授 酒本正之 教授 海老根雅静 教授 宮西川幸道 教授 今西尾典子

専攻	授 業 科 目	担 当 教 官
教 育 学 専 攻	(教 育 学)	道 浩 野 上 野 浩 道 (未 塚 原 (未 川 野 中 耳 森 宮 (未 小 鷹 田 森 宮 小 鷹 田 教 助 教 助 教 助 教 授 授 授 授 授 授 教 教 教 教 教 教 助 助 助 助 助 助 教 教 教 教 教 教
	(心 理 学)	史 章 俊 史 章 俊 喬 子 伸 喬 子 彰 藤 元 日 田 口 内 坂 春 内 石 助 助 助 助 助 助 教 教 教 教 教 教 助 助 助 助 助 助 教 教 教 教 教 教
舞 踊 教 育 学 専 攻	(舞 踊)	子 子 康 子 子 夫 夫 郁 夫 夫 子 子 秀 子 子 子 子 節 子 子 は る み 岡 田 賀 黒 下 片 本 加 石 森
	(音 楽)	彦 吉 彦 吉 郎 子 郎 子 秀 廣 秀 廣 丸 未 丸 未 藤 遠 藤 遠 林 林 教 助 教 助 授 授 教 教
日 本 言 語 文 化 学 専 攻	日 本 言 語 文 化 学 特 論 ・ 演 習 外 国 語 教 育 方 法 論 ・ 演 習 日 本 語 指 導 方 法 論 ・ 演 習 日 本 語 音 声 表 現 学 特 論 ・ 演 習 対 照 言 語 文 学 特 論 ・ 演 習 言 語 心 理 学 特 論	人 子 紀 人 子 津 奈 和 津 奈 和 彦 朗 彦 朗 次 郎 次 郎 江 直 江 直 子 子 木 澤 谷 友 田 口 根 村 田 三 西 湊 水 長 平 大 海 老 中 内
関 連 科 目	独 文 学 特 論 ・ 演 習 仏 文 学 特 論 ・ 演 習	石 丸 昭 二 (未 川 定) 宏 子 石 中 村 弓

諸 報

○平成5年9月卒業式及び学位記授与式について

平成5年9月卒業式及び学位記授与式が9月30日(木)大学会議室(生活科学部本館2階)で举行された。

・卒業者数 (5名)

文教育学部 4名

家政学部 1名

・修了者数 (12名)

修士課程 人文科学研究科 7名

理学研究科 2名

家政学研究科 2名

博士課程 人間文化研究科 1名

○学位授与

(課程修了によるもの)

授与番号	博士の専攻分野の名称	授与年月日	氏名	本籍	論文題名
甲第30号	博士 (人文科学)	平成5年9月30日	林 呈 蓉	台 湾	十世紀から十六世紀における日本の対外方針 -日中交渉の実態-

(論文提出によるもの)

授与番号	博士の専攻分野の名称	授与年月日	氏名	本籍	論文題名
乙第28号	博士 (学術)	平成5年9月30日	朴 香 俄	大韓民国	十八世紀の韓国における子どもの遊びに関する研究 -『士小節』を手がかりとして-
乙第29号	博士 (学術)	平成5年9月30日	藤原 葉子	千葉県	n-6系多価不飽和脂肪酸を中心とする必須脂肪酸の代謝および生理作用

○海外渡航

所属・職名	氏名	渡航先国	渡航目的	期間	渡航種目
理学部・助教授	林 正 男	ドイツ連邦共和国	「ビトロネクチンとそのレセプターの生物学」国際会議出席と資料収集	5. 8.23～ 5. 9. 6	外国出張
生活科学部 ・ 教授	本 間 清 一	アメリカ合衆国	第5回メイラード反応国際シンポジウムでの研究発表及び関連資料収集	5. 8.23～ 5. 9. 5	外国出張
生活科学部 ・ 助教授	久保田 紀久枝	アメリカ合衆国	アメリカ化学会秋季大会に出席・発表および第5回メイラード反応国際シンポジウムに出席のため	5. 8.23～ 5. 9. 6	外国出張
生活科学部 ・ 助教授	大 塚 恵	アメリカ合衆国	第5回メイラード反応国際シンポジウムに出席及び研究打合せ・資料収集	5. 8.23～ 5. 9. 6	外国出張
生活科学部 ・ 助教授	村 田 容 常	アメリカ合衆国	第5回メイラード反応国際シンポジウムにて発表・討論及び資料収集	5. 8.24～ 5. 9. 6	外国出張
生活環境研究センター・教授	倉 田 忠 男	アメリカ合衆国	第5回メイラード反応国際シンポジウム出席及び食嗜好性関連資料収集	5. 8.24～ 5. 9. 6	外国出張
文教育学部 ・ 助教授	熊 谷 圭 知	中華人民共和国	北京日本学研究センター日本語研修コースにおいて「日本地理・風土論」の授業担当のため	5. 9. 4～ 6. 7.15 (帰国予定)	外国出張
生活科学部 ・ 助教授	大 塚 恵	オーストラリア	第15回国際栄養学会議出席・研究発表	5. 9.24～ 5.10. 3	外国出張
文教育学部 ・ 教授	石 黒 節 子	アメリカ合衆国・連合王国・ドイツ連邦共和国・オランダ王国	「舞踊芸術と公立の教育機関」に関する資料収集のため	5.10. 1～ 5.11.30 (帰国予定)	外国出張
理学部・助手	作 田 正 明	大 韓 民 国	アジア太平洋植物組織培養学会議出席・講演	5. 9. 5～ 5. 9.12	海外研修
生活科学部 ・ 助教授	長谷部 ヤエ	カ ナ ダ	第13回国際生気象学会で論文発表のため	5. 9.11～ 5. 9.20	海外研修
文教育学部 ・ 助教授	相 原 茂	中華人民共和国	中国文化と中国事情に関する調査研究及び資料収集	5. 9.16～ 5. 9.23	海外研修
理学部・教授	内 嶋 善兵衛	台 湾	中日農業気象応用研修会出席研究発表	5. 9.21～ 5. 9.25	海外研修
生活科学部 ・ 助教授	鈴 木 恵美子	オーストラリア	第15回国際栄養学会に出席・発表、及び資料収集	5. 9.22～ 5.10. 3	海外研修
生活科学部 ・ 教授	本 間 清 一	オーストラリア	第15回国際栄養学会議での研究	5. 9.22～ 5.10. 3	海外研修
生活環境研究センター・教授	五十嵐 脩	オーストラリア	第15回国際栄養学会議に出席・発表のため	5. 9.22～ 5.10. 3	海外研修
生活環境研究センター・教授	倉 田 忠 男	オーストラリア	第15回国際栄養学会議に出席	5. 9.22～ 5.10. 3	海外研修
生活科学部 ・ 教授	黒 田 淑 子	台 湾	国際集団精神療法学会第3回環太平洋地域会議に出席・発表	5. 9.23～ 5. 9.27	海外研修
理学部・教授	太 田 隆 夫	ドイツ連邦共和国	「複合液体」に関する第2回ヨーロッパゴードン会議にて招待講演	5. 9.26～ 5.10. 4	海外研修

所属・職名	氏名	渡航先国	渡航目的	期間	渡航種目
文教育学部 ・教授	片岡康子	大韓民国	韓国舞踊学会大会において講演	5.10.21～ 5.10.25	海外研修
文教育学部 ・助手	松村朋子	大韓民国	韓国舞踊学会大会に出席	5.10.21～ 5.10.25	海外研修

○研 修

名 称	実施日時	対 象 者	終 了 者	主 催
第56回関東地区中堅 係員研修	平成5年9月28日 ～10月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・国家公務員採用Ⅲ種試験により採用され、採用後おおむね8年の経験を有する者及び国家公務員採用Ⅱ種試験により採用され、採用後おおむね3年の経験を有する者並びにこれらと同等と認められる者 ・本年度4月1日現在30歳未満の者 ・勤務成績が優秀な者 	会計課・用度係員 田村 耕造	人 事 院
平成5年度関東甲信 越地区 国立学校事務電算 化担当職員研修A (プログラムコース)	平成5年9月6日 ～9月14日	事務の電算処理を担当する職員	会計課・総務係員 浅田 成一 会計課・管財係員 田中 麻美	文 部 省 千葉大学共催
第28回関東甲信越地区 国立大学等会計事 務職員研修	平成5年10月18日 ～10月22日	現在会計事務に従事し、 かつ1年以上会計事務の経験 を有する者	会計課・出納係長 藤城 健三 会計課・給与係長 佐野 公子	文 部 省 群馬大学
第44回文部省会計事 務特別研修	平成5年9月20日 ～10月8日	現在会計事務に従事し、 かつ、1年以上会計事務の 経験を有する者又はそれに 相当する者で、原則として 年齢25歳以上30歳以下の者	会計課・給与係員 増井 薫	文 部 省
平成5年度国立大学 事務長研修	平成5年10月6日 ～10月8日	平成5年4月1日以降新 たに国立大学の事務長に就 任した者で、年齢56歳以下 の者	附属図書館・事務長 高橋 伸夫	文 部 省
放射線医学総合研究 所及び日本原子力研究 所における国立大 学等教職員研修 (第240回基礎課程)	平成5年9月20日 ～10月15日	放射線関係の実務経験4 年程度以上の高卒、大学理 工系卒、または同程度のレ ベルを有する者	理学部・RI実験室 古田 悦子	放射線医学 総合研究所・ 日本原子力 研究所

○平成5年度職員福利厚生事業について

今年度の職員福利厚生事業について、下記のとおり予定（一部実施済）していますので、お知らせします。

記

レクリエーション

実施内容	実施人数	実施場所
映画鑑賞	250人	都内近郊映画館
水族館見学	25人	八景島シーパラダイス
観劇	60人	国立劇場
ボウリング大会	45人	池袋ブラウンズ・ウィック
ミュージカル	20人	日生劇場
ドッジボール大会	75人	学内体育館
バトミントン大会	(班主催)	学内体育館
卓球大会	(班主催)	学内体育館
囲碁将棋オセロ大会	75人	本部棟
演芸鑑賞	40人	国立劇場小劇場

健康管理

実施時期	実施内容	対象者	実施場所
9・3月	特別定期健康診断	自動車運転手	保健管理センター
10月・12月	一般定期健康診断	全職員 未受診者	〃
11月	肝機能検査	35才及び40才以上の 常勤職員	〃
〃	胃の検査	40才以上の 常勤職員	医療機関 検診車
〃	VDT検診	VDT従事者	保健管理センター
〃	遠隔地勤務者健康診断	志賀及び館山に勤務する者	長野県 中野保健所 千葉県 館山保健所

○お茶の水女子大学職員レクリエーション各班紹介

本学のレクリエーション班を紹介します。班活動への参加は教官・事務系職員、常勤・非常勤の別を問いませんので、積極的に参加いただき、福利厚生及び親睦にお役立てください。

班名・班長名・内線	班 紹 介
バトミントン班 春日 明夫 (472) 附属中学校	バトミントン班は、昨年から再結成された班で、現在附属中学校、高等学校の職員が中心になって活動しています。昨年は第1回教職員大会を盛大に開催し、栄誉ある優勝は会計課チームに輝きました。今年の大会にはさらに多くの参加を期待しています。
ゴルフ班 西村 光範 (221) 会計課	止まっている球を打つのは簡単なんて考えているあなた、広いグリーンと谷あり林ありのコースで思いっきり球を飛ばし快い汗をかいて日頃の運動不足を解消してはどうですか、年5～6回コンペを開催しますので奮って参加願います。
サッカー班 上島 正彦 (205) 庶務課	今人気沸騰中のサッカー 子供のころボールを蹴った方、これから始めようと思っっている方、経験者いつでも歓迎します。ゴールに向かってシュート!! マネージャー、サポーターもまっています。
野球班 柴田 正造 (241) 施設課	我が野球班は30年以上の伝統を誇る、本学一の素晴らしい班であり、現在の加入数30人以上と人気も多大であるが、若い人材が不足しているのが現状です。平成5年度春季野球大会では、二部で準優勝をして念願の一部に昇格しました。若い君まってるわ。
卓球班 田口 裕子 (472) 附属中学校	温泉卓球の王者、昔とった杵柄の方など、隠れ卓球愛好家の皆様!卓球班では、男女を問わず班員を大募集しています。たまには卓球でも・・・と思う方は近くの班員までお知らせください。(年1回学内職員卓球大会を開催していますので、お誘いあわせの上御参加願います。)
軟式テニス班 古賀 智 (269) 庶務課	自然消滅の一途を辿っています。

班名・班長名・内線	班 紹 介
ボウリング班 富山 弘 (225) 会計課	明るく楽しい“ボウリング”には古い歴史があり、又、ルールやエチケットのあるスポーツです。何時の世にも隠れファンがいるものです。日頃腕を磨いておられる方、初めての方、あなたもボウリング班へどうぞ!!
釣 班 岡田 健一 (291) 入学主幹室	釣りは、老若男女を問わずできるレジャーです。自然の中で釣った魚をその場で焼いて食べれば、まさに趣味と実益が一致します。個人趣味的な要素もありますが、自然環境を守りながら大勢でワイワイやるのも楽しいものです。
硬式テニス班 ()	休部中。個人的に練習している人、大会への参加意思のある人は大勢います。班長として活動の取りまとめをしていただける方は庶務課職員係へお申し出ください。
音楽・ダンス班 近本 政明 (304) 文教育学部 事務室	幅広い名曲の数々をコンサート及びLD等を通じて鑑賞し、音楽の人間に与える効果について論じ合う。最近ではBGM班と行動を共にし、声帯の酷使による体力の消耗度及び周囲に与える迷惑度の個人差について激論を交わしている。
園 芸 班 加藤 久雄 (204) 庶務課	地上には、数えきれないほどの「花」が「人」とともに咲いています。お茶大でのひと時、考えてみませんか 花の咲くわけを 生きるわけを。咲かせてみませんか あなただけの花を みんなの花を。『一人一花 園芸班』
娯 楽 班 田中 恭次 (232) 会計課 車庫	当班は、囲碁・将棋・麻雀の他、今年からオセロも加わる予定です。特徴として天候等に関係なく何時でもできます。又、個人毎に研鑽できます。健全に大会目指して対局に勤しみませんか。
B G M 班 田中 恭次 (232) 会計課 車庫	♪あなた変わりはないですか♪あなたの心に♪あなたが唄んだ♪あなたの過去など♪あなたを待つ♪あなたの為に♪あなたの髪に♪あなたの燃える手で…あなたが音痴？だろうと関係なし。さあ、あなたも歌いましょう！
華 道 班 真野 真知子 (286) 附属図書館	花器の管理だけはしていますが…
書 画・カメラ班 吉成 政行 (502) 理学部 事務室	写真班は、現在特に目立った活動は行っておりませんが、時期をみて撮影会を行い、それを展示することも考えておりますので、撮影会の時期と場所等についてご意見がありましたら、是非お知らせください。
謡 曲 班 沢柳 友子 (284) 附属図書館	謡曲班存続の難しさは声を出すための場所の問題だけではなく、指導者や費用、流派など、幾つかの壁を乗り越えなければならない点にあります。それでもやはり、謡曲が好きという方の参加をお待ちしています。
茶 道 班 村山 恵子 (482) 附属小学校 事務室	現在休部中です。お道具もだいたいそろっていますので、入門、小習ぐらいでしたら、十分けいこできます。一緒にやろう！と声をかけてくださる方がいれば、いつでも始められます。

○健康診断

事 項	実施日時	対 象 者	受診者数	実施場所
平成5年度 職員特別定期健康診断 (第一次)	平成5年9月21日	自動車運転手	3人	保健管理センター
職員定期健康診断 (第1回)	平成5年10月14日 ～10月15日	全職員 ただし、人間ドック受診者及 び遠隔地勤務者を除く。	179人	保健管理センター

○自衛消防隊訓練審査会について

文京区の小石川消防署で9月17日に行われた自衛消防隊の審査会において、お茶の水女子大学「女子消防隊」が第2位の荣誉に輝き、小石川消防署長から優秀賞が授与されました。



計 報

藤田健治（名誉教授・元学長）

藤田健治氏には病気のため平成5年10月10日逝去されました。享年89才。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

なお、生前の功績により正四位に叙せられました。

○その他

○リフレッシュ「書」研究会について

本年9月22日から、隔週水曜日の午後6時から職員を対象に書道指導が行われています。

講師は、文部省大臣官房総務課の海老原専門員で、同氏は公立学校での教鞭経験の後、平成2年4月から現職に就かれております。なお、同氏が指導した高校が7年連続で書道日本一となった実績の他、中村賞、国際芸術大賞、毎日大賞等、多数受賞されており、現在は、文部大臣の引き継ぎ書や祝辞、また、各種表彰状等の揮毫にあたられておりますが、この度は公務御多忙中にもかかわらず、本学における指導についてはボランティア活動として快くお引き受けいただいています。



日 誌

◇諸 会 議

- | | |
|---|--|
| <p>9月3日(金) 事務連絡会議</p> <p>10日(金) 女性文化研究センター・生活環境研究センター合同会議、国立学校等経理部課長会議(於・東京医科歯科大学)</p> <p>14日(火) 部局長会議</p> <p>16日(木) 教授会(3学部)</p> <p>17日(金) 研究科会議</p> <p>21日(火) カリキュラム委員会</p> <p>22日(水) 将来構想検討委員会</p> <p>関東C地区事務電算化協議会(於・東京水産大学)</p> <p>23日(金) 東京地区国公立大学厚生補導部課長会議(於・本学)</p> <p>29日(水) 部局長会議、附属学校教育研究委員会</p> <p>30日(木) 評議会</p> <p>情報処理センター運営委員会</p> <p>10月5日(火) 事務連絡会議、国際交流委員会留学生専門委員会</p> | <p>6日(水) 研究科会議</p> <p>12日(火) 女性文化研究センター・生活環境研究センター合同会議、紀要(自然科学報告)編集委員会</p> <p>13日(水) 学生委員会</p> <p>15日(金) 関東甲信越地区国立大学学長会議(於・筑波大学)</p> <p>官公需問題懇談会、附属図書館運営委員会</p> <p>18日(月) 入学試験委員会、女性文化研究センター・生活環境センター合同会議、池田麻耶子・重奨学金審査委員会</p> <p>19日(火) 部局長会議、国際交流委員会、防災委員会、家政学部奨学基金審査委員会</p> <p>20日(水) 教授会(3学部)</p> <p>国立15大学学長懇話会(於・東京商船大学)</p> <p>21日(木) 関東甲信越地区国立大学庶務部課長会議(於・鬼怒川12日まで)</p> |
|---|--|

<p>国立大学協会第1常置委員会、文部 省共済組合全国事務担当者打合せ会 (於・東京医科歯科大学)、22大学 理学部長会議(於・竹橋会館)</p> <p>10月22日(金) 国立大学理学部長会議(於・竹橋会館)</p> <p>23日(土) 女子大学連盟総会(於・椋山女学園 大学)</p>	<p>22日(水) 附属中学校生徒祭(23日まで)</p> <p>25日(土) 公開講座</p> <p>27日(月) 大学院人間文化研究科入試(29日ま で)、大学院人文科学研究科日本語 文化専攻願書受付(10月1日まで)</p> <p>30日(木) 卒業式・学位記授与式、学位記(論 文博士)授与式</p>
<p>◇行事等</p>	<p>10月2日(土) 公開講座、附属小学校運動会、附属 高等学校文化祭(3日まで)</p>
<p>9月1日(水) 大学院人間文化研究科願書受付(7 日まで)</p> <p>7日(火) 大学院理学研究科入学試験 大学院家政学研究科入学試験</p> <p>11日(土) 公開講座</p> <p>17日(金) 大学院理学研究科合格発表、大学院 家政学研究科合格発表、自衛消防隊 訓練審査会</p> <p>18日(土) 公開講座</p> <p>21日(火) 平成5年度大学入学広報セミナー (於・朝日ホール)</p>	<p>3日(日) 附属幼稚園運動会</p> <p>8日(金) 大学院人間文化研究科合格発表</p> <p>9日(土) 公開講座</p> <p>12日(火) 大学院人文科学研究科日本語文化 専攻入試(13日まで)</p> <p>14日(木) 職員一般定期健康診断(15日まで)、 生涯生活設計セミナー(於・東京医 科歯科大学)</p> <p>16日(土) 公開講座</p> <p>21日(木) 大学院人文科学研究科日本語文化 専攻合格発表</p> <p>23日(土) 公開講座</p>